

令和元年度

# 決算の概況(2)

一般会計 歳出の状況

総務常任委員会関係

企画政策部



## ○決算の概況（2）について

### 1 上段の表中の表示について

- (1) 執行額、翌年度繰越額、執行残額は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は「-」（ハイフン）を表記しています。
- (2) 執行額の財源内訳欄及び執行残額の内訳欄は、単位未満の数値（四捨五入してゼロとなる500円未満の数値）がある場合は「0」（ゼロ）を表記し、該当数値のない場合は見易さを考慮し空白としています。
- (3) 個々の数字は、表示単位で四捨五入しています。また、財源内訳欄は、それぞれの数値を表示単位で四捨五入し全体額との調整を一般財源欄で行っています。

### 2 執行残額について

執行残額については、大きく4つの理由に分けて金額を表示するとともに、具体的な内容を【執行残額について】に記載しています。

なお、原則として千円単位の表記となっていますが、執行残額が「0」の場合（単位未満の数値がある）は、円単位で表記しています。

※令和元年度事業が令和2年度に複数の課に分割された場合は、令和2年度所管課分の数値を記載し、下段【】書きで令和元年度事業全体事業費を記載してあります。  
事業の概要以降は、令和2年度所管課分の事業について作成してあります。

(例) 令和元年度事業費(●●課) 48,000千円

↓  
令和元年度事業費(令和2年度○○○課) 36,000千円  
令和元年度事業費(令和2年度△△△課) 12,000千円

※令和元年度と令和2年度で所管課名称が変更になった場合、または、課等の名称が変更になった場合は、下記のとおり表現とし、事業を担当する令和2年度の所管課が作成してあります。

記入例： 令和元年度は●●課で実施した事業が  
令和2年度に○○○課に移管された場合

所管課等	○○○課 (令和元年度所管は●●課)
------	-----------------------

(単位：千円)

決算書 (P ~ P)	款 項 目	所管課等	○○○課 (令和元年度所管は●●課)
事業名			

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,000 【48,000】						
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	

執行額、翌年度繰越額、執行残額の欄は、次のとおり  
単位未満の数値あり：「0」（ゼロ）  
該当数値なし：「-」（ハイフン）

財源内訳、内訳の欄は、次のとおり  
単位未満の数値あり：「0」（ゼロ）  
該当数値なし：空白

(単位：千円)

決算書 (P134～P135)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
532	398		395			3
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	134				134	

## 【目的】

上越市大規模開発行為の適正化に関する条例や国土利用計画法に基づく届出制度の運用により、関係法令や市の各種計画等と整合を図りながら、第6次総合計画の土地利用構想に適合した土地利用を推進する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用により、市内の大規模な土地利用を審査し、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用を推進する。
- ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出制度の運用により、市内の大規模な土地取引情報を把握し、第6次総合計画を始めとする市の各種計画や関係法令に適合した土地利用の推進に活用する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例の運用  
条例に基づく大規模開発行為に係る開発協定の締結件数：2件（三和区における土採取）  
＜開発協定の締結件数＞

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
締結件数	0件	0件	0件	0件	1件	2件
開発内容	-	-	-	-	土採取	土採取

- ・国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の審査（県経由事務）  
国土利用計画法に基づく土地売買等届出書を審査し、市の意見を付して県に提出した。  
＜土地売買等の届出件数＞

年(暦年)※	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
届出件数	60件	84件	25件	65件	94件	39件

※国土利用計画法では、届出の受理を1月1日から12月31日までを一連番号として運用。

- ・新潟県大規模開発行為の適正化対策要綱に係る協議書の受付（県経由事務）  
受付件数0件

決算書 (P134～P135)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	土地利用対策費		

○目標達成状況

- ・上越市大規模開発行為の適正化に関する条例に基づき、大規模開発予定者から提出された実施計画書 2 件について協議を行い、相手方との合意に基づき開発協定を締結することで、適正な土地利用を推進した。
- ・国土利用計画法に基づく大規模な土地取引に係る届出 39 件について、市の意見を付して、県に送付し、県から届出者に対して市の各種計画等との整合性を踏まえた指導が行われ、適正な土地利用が推進された。

【事業の成果】

市内における開発行為や土地取引について適正に審査を行い、関係法令や市の各種計画等に適合した土地利用を推進することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

国土利用計画法で規定された土地売買等の届出期限を超えた違反事案が 14 件あったことから、引き続き広報上越やホームページを通じて適切な土地取引が行われるよう周知を図る。

【執行残額について】

その他：報酬及び旅費の残ほか 134

(単位：千円)

決算書 (P134～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
55,502	45,746	18,779	1,306	12,900	57 (割入金、譲収入)	12,704
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	9,756			1,186	8,570	

## 【目的】

- 企画調整費（庶務関係）：国、県、関係自治体及び関係機関と連携を図りながら、要望活動などを通じ、市の施策や事業の実現を目指す。
- 重要施策企画調整事業：各種制度や事業等に関する情報収集、調査研究を行うとともに、市の重要施策の企画、立案及び総合調整を行う。また、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働により、当市における地方創生の取組を推進する。
- 域学連携推進事業：大学と地域との連携体制を構築し、相互交流や実践活動を推進するとともに、地域の課題解決やまちづくりの推進に取り組み、地域の活性化を図る。
- 城下町高田再生推進事業：城下町高田の歴史・文化資産の活用を通じて、高田市街地の魅力や都市機能の向上を図り、定住の促進と交流人口の拡大を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■企画調整費（庶務関係） 1,908

## ○令和元年度目標

- ・国、県、関係自治体及び関係機関との連携や連絡調整を図りながら、当市が抱える諸課題の早期解決及び改善に向けた提言や要望を行う。
- ・上越市内官公長連絡協議会を開催し、関係機関との情報共有と情報交換を行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・国の概算要求及び財務省内示の時宜を捉え、国の制度・予算に対する市単独の中央要望を2回実施したほか、北信越市長会を通じて全国市長会より提言を行った。
- ・当市に関連する県の制度・予算について、知事等に直接要望したほか、県市長会等を通じて要望を行った。
- ・市内官公長連絡協議会を開催し、関係機関と情報共有、情報交換を行った。
- ・全国施行時特例市市長会は、施行時特例市の中核市への移行特例期間が令和元年度末で終了することなどから、令和2年3月31日をもって解散した。

## ○目標達成状況

- ・時宜を捉えた国や県への要望活動を実施した。
- ・上越市内官公長連絡協議会を通じ、国・県の機関と情報や課題の共有を図ることができた。

決算書 (P134～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

■重要施策企画調整事業 8,538

○令和元年度目標

- ・第6次総合計画に掲げた将来都市像の実現に向けて計画の進捗管理を行う。
- ・重要施策の企画・立案に必要な調査研究、情報収集等を行う。
- ・地方創生の着実な推進に向けて「産・官・学・金・労・民」の連携・協働を促進する。
- ・重要業績評価指標（KPI）の達成状況を踏まえ、「上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価・検証を実施するとともに、令和2年度以降の取組に向けて第2期総合戦略の策定を行う。

○実施内容、これまでの経過等

- ・第6次総合計画の着実な推進に向け、各施策・事業の進捗や課題を踏まえ、新規事業の創出と既存事業の見直しを行った。
- ・「上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、第1期総合戦略）」に位置付けられた取組について、ソーシャルメディア等を通じた情報発信や民間団体等への地方創生推進事業補助金による支援を行うとともに、「産・官・学・金・労・民」の各団体で構成される上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会（以下、推進協議会）において進捗管理等を行った。
- ・第1期総合戦略を検証するとともに、若者世代・子育て世代の市民アンケートや人口減少に関する市民アンケートの結果、パブリックコメントにおける市民の意見を踏まえた推進協議会による議論を経て、第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定した。
- ・上越市、妙高市及び糸魚川市、並びに、新潟県上越地域振興局及び糸魚川地域振興局で構成する「上越地域ご当地ナンバー導入検討会」を4回開催し、上越地域図柄入りナンバーのPR方法を検討した。

○目標達成状況

- ・第6次総合計画に基づく施策・事業の進捗管理を行うとともに、計画を着実に推進するための新規・拡充事業を令和2年度予算に反映した。
- ・推進協議会の参加団体による部会でのワークショップ等を通じて、「産・官・学・金・労・民」の連携・協働を促進した。
- ・地方創生の充実・強化に向けた取組を切れ目なく推進するため、第1期総合戦略の検証等を通じて見えた課題等を、今後更に取組を強化すべき重要視点として整理し、これらを反映した各種の政策・施策を取りまとめた第2期総合戦略を策定した。

■域学連携推進事業 54

○令和元年度目標

大学と地域の連携による課題解決・まちづくりの新たな取組を2件以上実施する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・大学の専門知識や学生の活力・アイデアをまちづくりにいかすため、市内で行われた域学連携の取組状況を調査したほか、地域の課題解決に向けて大学の紹介等を行った。

○目標達成状況

- ・各地域が主体的に取り組む、地域の郷土料理の継承（大島区）と、移住促進につながる集落の教科書作成（諏訪区）の取組に着手することができた。

決算書 (P134～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	企画調整費		

■城下町高田再生推進事業 35,246

○令和元年度目標

次世代の街の担い手の育成と連携の促進に向けて、空き家等のリノベーションに関する取組を行うとともに、更なる交流人口の拡大に向けて、高田小町駐車場の整備に取り組む。

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域再生計画「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』」の推進に資する市民団体の2件の取組を支援した。
- ・空き家等のリノベーションを通じた次世代の街の担い手の育成に向けて、ワークショップを3回開催するとともに、リノベーションされた物件を紹介するパンフレットを作成した。
- ・来訪者が増加傾向にある高田小町の集客機能の強化と利便性の向上を図るため、令和2年度の駐車場整備に向けて用地を取得した。

○目標達成状況

民間団体等が実施する地域資源をいかした取組を支援するとともに、空き家等のリノベーションに関するワークショップの開催等を行うことにより、次世代の街の担い手の育成と連携の強化を図ることができた。また、高田小町の駐車場用地を取得し、令和2年度事業の準備を整えた。

【事業の成果】

- ・時宜を捉えた国や県への要望活動の実施により、道路や河川事業の進捗等が図られた。
- ・各施策・事業の進捗や課題を踏まえ、新規事業の創出と既存事業の見直しを行うことで、第6次総合計画の更なる推進につなげることができた。
- ・第1期総合戦略の成果を検証するとともに、新たな視点として若者の市内定着や将来的なUターン促進などの取組を重点的に推進する第2期総合戦略を策定することができた。
- ・空き家等のリノベーションを通じたワークショップの取組やパンフレットの作成過程を通じて、新たに高田の街なかに関心を持つ人の発掘につなげることができた。
- ・上越地域図柄入りナンバープレートについて、令和2年5月の交付開始に向け、交付開始を周知するチラシ・ポスターを市内自動車販売店等に配布するなど、普及促進の取組を進めた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

人口減少や少子高齢化が進む中であっても、市民がすこやかに暮らせるまちの実現を目指し、第6次総合計画と第2期総合戦略に基づく取組を着実に推進しながら、分野横断的な政策・施策の一層の展開や官民連携の強化を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金：委託料 1,186
- その他：不動産鑑定評価に基づく事業用地購入費の減 3,616
- 補助金の実績が当初見込みを下回ったことによる残 2,108
- 物件補償調査に伴う損失補償料の減 1,137
- 旅費の残ほか 1,709

(単位：千円)

決算書 (P136～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
36,817	32,111	13,728		9,400		8,983
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,706			127	4,579	

## 【目的】

当市の歴史的遺産等の再評価や貴重な地域資源としての重要性を認識し、市民の地域に対する愛着の高揚を促すとともに、歴史的建造物の保存と活用に向けた取組を通して、地域の活性化と文化の振興を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■市所有の町家の公開による情報発信・市民意識の啓発 1,913

○令和元年度目標

市が所有する町家への来場者数 7,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 市所有の町家の公開、街なか散策の促進 1,051

- ・地域の市民団体と連携したイベント「越後高田町家三昧」を開催し、期間中は市民スタッフによる「まちなみ散策ミニツアー」を実施した。
- ・観光ツアーや総合学習の来場者に合わせて町家を公開した。
- ・町家公開日数：200日



旧今井染物屋 内観

(2) 市所有の町家の維持管理 862

- ・修繕料 154 (旧金津憲太郎桶店雨漏り修繕ほか)
- ・委託料 476 (旧今井染物屋庭園剪定業務、消火器点検業務ほか)
- ・光熱水費、下水道使用料ほか 232

○目標達成状況

年間来場者数 6,965人

決算書 (P136～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

■歴史的建造物を活用した回遊性の強化や賑わいの創出 26,568

○令和元年度目標

貴重な歴史的遺産等への関心を高めるとともに、周辺地域の賑わい創出に寄与する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 旧今井染物屋の活用 2,507

建物の公開を行うとともに、陶芸や編み物の講座のほか、地元の劇団による演劇公演、フリーマーケットの開催など、雁木や町家の活用促進に向けた取組を進めた。

(2) 旧今井染物屋の建物改修工事に向けた実施設計 8,305

歴史的建造物としての保存と、更なる活用を図るため、建物改修工事に向けた実施設計を行った。

(3) 高田世界館の活用 3,139

地元高校生による映画をPRするための絵看板の制作イベントや、高田世界館前の交流広場及びソーシャルメディアを活用したイベントなど、広域からの誘客や街歩きにつながる取組を進めた。

(4) 100年映画館周辺交流広場の整備 12,617

高田小町周辺の街歩きの拠点エリアとしての更なる拠点性を高めるため、高田世界館前に交流広場を整備し、令和2年3月から供用を開始した。



新たに整備した交流広場

○目標達成状況

旧今井染物屋の活用を通して、歴史的建造物への関心や理解を深めるとともに、高田世界館を活用した誘客イベントの開催や交流広場の整備などにより、周辺地域の賑わいを創出した。

<旧今井染物屋及び高田世界館の活用>

年度	旧今井染物屋		高田世界館	
	公開日数(日)	来場者数(人)	開館日数(日)	来場者数(人)
平成29年度	182	5,668	316	14,141
平成30年度	170	5,359	315	17,585
令和元年度	196	6,067	315	17,059

決算書 (P136～P137)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	歴史資源活用推進事業		

■雁木整備事業補助金の交付 1,726

○令和元年度目標

市民への経済的支援を行うことにより、雁木整備を促進する。

○実施内容、これまでの経過等

指定地区における雁木の新築・修繕、雁木下通路の段差解消工事に対し、補助金を交付した。

<補助率・限度額>

- ・補助率：1/2
- ・限度額：450千円

○目標達成状況

申請のあった7件の工事に補助金を交付し、市民による雁木の整備を推進した。

<令和元年度末までの地域指定及び補助金の交付状況>

年度	地域指定		補助金交付	
	件数 (件)	指定距離 (m)	件数 (件)	金額 (千円)
平成16～30年度	25	10,543	123	52,753
令和元年度	-	-	7	1,726
合計	25	10,543	130	54,479

■共通事務費 1,904

非常勤一般職報酬、旅費、消耗品費、自動車借上料ほか

【事業の成果】

地域住民や市民団体等との連携による歴史的建造物を活用した誘客イベントや体験イベントの開催を通して、街なかの回遊促進や地域の賑わい創出につなげることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・旧今井染物屋は、現存する市内の町家の中で最古級に属し、近世末期の高田地区を代表する町家として評価され、令和元年8月に市の文化財に指定された。文化財として適切に保存するほか、地域の手仕事文化の継承と発信を行う拠点として活用するため、耐震を含めた改修工事等を行うとともに、地域おこし協力隊の活用などに向けた準備を進めていく。

【執行残額について】

入札差金：印刷製本費 115、自動車借上料 12

その他：当初見込みを下回ったことによる報償費、委託料、工事請負費の残 4,579

(単位：千円)

決算書 (P136～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
163,117	156,870	34,807			69,900 (繰越金)	52,163
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	6,247			92	6,155	

## 【目的】

- 新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業：広域の玄関口である上越妙高駅周辺地区のまちなみ形成と、土地利用方針に位置付けた「質の高い新都市空間」の形成を推進する。
- 新幹線まちづくり推進事業：新幹線開業によるまちの変化を的確に捉えながら効果的な施策を展開し、新幹線をまちの力として取り込むことにより、第6次総合計画で設定した市政運営のテーマである「選ばれるまち」「住み続けたいまち」の実現を図る。
- 北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など：北陸新幹線の早期全線開通と県内駅の利便性向上に向け、沿線自治体との連携の下、関係団体に対する要望活動等を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■新幹線新駅周辺地区まちなみ形成推進事業 154,970

○令和元年度目標

各種補助制度を通じた上越妙高駅周辺への企業進出の加速化

○実施内容、これまでの経過等

・上越妙高駅周辺商業地域進出企業に対する各種補助制度の運用

市が首都圏等の企業を対象に実施した立地意向調査(約700社)等を踏まえ、上越妙高駅周辺への進出に関心のあった企業(4社)を訪問したほか、各種補助制度の周知・運用による企業進出の促進や支援、土地の利活用の見通し等の情報収集を行った。

また、各種補助制度は、民間企業の早期進出を促すため、使用収益開始から5年以内の営業開始を認定要件としているが、一層の加速化を図るため申請受付期限を新たに設け、関係者に周知した。なお、優良建築物等整備事業補助金は令和元年9月30日、上越妙高駅自由通路北側区域及び商業地域の西側区域における企業設置等奨励金は令和2年3月31日をもって受付を終了した。

<利用実績>

区 分	件 数	金 額
企業設置等奨励金(平成25年度制定)	3件	774
建築資金借入利子前払事業補助金(平成28年度制定)	2件	48,450
レンタルオフィス・サポート事業補助金(平成28年度制定)	3件	1,004
優良建築物等整備事業補助金(平成29年度制定)	2件	104,707

決算書 (P136～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

○目標達成状況

- ・コンビニエンスストアやIT企業のオフィス、レンタカー営業所等の整備・開業が進み、利用決定済みの土地面積が増加した。

区分	H31.3.31 (A)	R2.3.31 (B)	比較増減 (B) - (A)
利用決定済みの土地	68,557 m <sup>2</sup> (71.4%)	73,943 m <sup>2</sup> (77.0%)	5,386 m <sup>2</sup>
利用を検討中の土地	16,359 m <sup>2</sup> (17.0%)	12,636 m <sup>2</sup> (13.2%)	△3,723 m <sup>2</sup>
未利用の土地	11,119 m <sup>2</sup> (11.6%)	9,456 m <sup>2</sup> (9.8%)	△1,663 m <sup>2</sup>
合計	96,035 m <sup>2</sup> (100.0%)	96,035 m <sup>2</sup> (100.0%)	0 m <sup>2</sup>

■新幹線まちづくり推進事業 1,597

○令和元年度目標

- ・新幹線をいかしたまちづくりの推進
- ・北陸新幹線上越妙高駅の利用促進

○実施内容、これまでの経過等

(1) 上越妙高駅利用啓発事業

- ・令和元年東日本台風により、北陸新幹線が運休、減便したことを受け、上越妙高駅の乗降客数への影響を調査した上で、北陸新幹線の早期復旧等について国への要望を行った。
- ・令和2年3月の北陸新幹線上越妙高駅開業5周年に合わせ、広報上越3月1日号に特集記事を掲載し、上越妙高駅の利用状況や北陸新幹線の利便性等を発信した。このほか、民間企業及び市民団体と連携し、北陸新幹線開業5周年イベントの情報を取りまとめて発信するなどの取組を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの多くが延期又は中止となった。

(2) 上越妙高駅前イルミネーション事業

- ・「上越妙高駅と共に歩む会」から寄贈された機材を活用し、上越総合技術高等学校の協力を得て、上越妙高駅東ロイイベント広場周辺においてイルミネーションを実施した。

<実施概要>

点灯期間：令和元年11月22日（金）～令和2年3月22日（日）

点灯時間：午後5時～11時

- 設置内容：・東ロイイベント広場周辺の樹木17本にイルミネーションを設置したほか、上越妙高駅お出迎えキャラクター「ウエルモ」型イルミネーション2体を設置した。
- ・北陸新幹線開業5周年を記念し、点灯期間を例年より約1週間延長した。

(3) 北陸新幹線開業5周年記念事業「北陸新幹線・トキ鉄の思い出」フォトキャンペーン

- ・糸魚川市と連携し、SNSで指定のハッシュタグを付けて北陸新幹線等に関する写真を投稿した人に記念品を贈呈し、開業5周年を節目とした更なる利用促進に向けた機運醸成を図った。

<実施概要>

実施期間：令和2年3月1日（日）～3月31日（火）

受付会場：上越妙高駅観光案内所、糸魚川駅ジオパル

参加者数：101人（上越妙高駅観光案内所34人、糸魚川駅ジオパル67人）

決算書 (P136～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

○目標達成状況

- ・上越妙高駅前イルミネーション事業や利用啓発事業等により、上越妙高駅の利用促進を図ったが、令和元年東日本台風による運休、減便等の影響により、乗降客数は前年度を下回った。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、北陸新幹線開業5周年を記念した集客イベントが開催できない中、SNSを活用した「北陸新幹線・トキ鉄の思い出」フォトキャンペーンを実施して情報発信を行い、北陸新幹線に対する関心を高めた。

■北陸新幹線の整備促進に向けた協議会の活動など 303

○令和元年度目標

- ・北陸新幹線の整備状況等に関する的確な情報収集と効果的な要望活動の展開
- ・利便性の高い列車の停車実現に向けた各同盟会、協議会等の構成市との連携強化

○実施内容、これまでの経過等

(1) 要望活動

- ・当市が参画する北陸新幹線関係都市連絡協議会や北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会、北陸新幹線建設促進同盟会を通じて、北陸新幹線の整備状況等に関する情報を的確に把握するとともに、国やJR（東日本・西日本）に対し要望活動を行った。

(2) 北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会の調査活動等

- ・今後の要望活動や、北陸新幹線の利用促進に向けた施策を検討する際の基礎資料を得るため、調査活動等を行うとともに、同盟会の構成自治体との情報共有を図った。

<実施概要>

- ・北陸新幹線を利用した個人旅行の動向調査の実施  
同盟会幹事市が連携し、各市の宿泊施設及びレンタカー営業所を対象に調査を実施した。
- ・ツーリズムEXPOジャパン2019（大阪開催）への出展とアンケートの実施  
県内の鉄道関係団体と連携して出展し、北陸新幹線や県内鉄道を利用した鉄道旅の魅力をPRするとともに、来場者に対し関西圏での北陸新幹線の利用状況や関心等についてのアンケートを実施した。
- ・関西圏を出発地とする北陸新幹線を利用した団体旅行の動向調査の実施  
関西の旅行事業者を対象に、ツアーでの北陸新幹線の利用状況や敦賀延伸後の商品開発の見込み等についてのアンケートを実施した。



R1. 8. 23 政府与党への要望



R1. 10. 26～27 ツーリズムEXPOジャパン2019への参加（大阪）

決算書 (P136～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	新幹線整備促進費		

○目標達成状況

- ・北陸新幹線に関する調査活動から得られた利用状況や敦賀延伸への関心等を要望活動や施策検討の基礎資料として活用することにより、北陸新幹線の大阪までの早期整備や上越妙高駅への利便性の高い列車の停車実現に向けて、国やJRに対する具体的な要望につなげることができた。

【事業の成果】

- ・各種補助制度の運用により、上越妙高駅周辺地区商業地域における土地利用が進み、ホテルや喫茶店、マンション等が開業したほか、商業施設やコンビニエンスストア、タクシー待合所兼営業所等が着工されるなど、駅周辺のまちなみ形成を促進することができた。
- ・北陸新幹線建設・活用促進期成同盟会及び県内の鉄道関係団体と連携した調査により、北陸新幹線の利用状況等を把握し、上越妙高駅の利用促進に向けた課題整理と今後必要な取組を検討する際の基礎資料とすることができた。
- ・国やJRへの要望活動により、北陸新幹線金沢・敦賀間の令和4年度末までの延伸開業に向け、順調に工事の進捗が図られている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越妙高駅周辺の賑わい創出に向け、企業誘致の活動はもとより、各種補助制度の運用を通じて、検討中の民間事業の早期着工を促していく。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により北陸新幹線の利用が落ち込む中、上越妙高駅や駅周辺地区商業地域への影響を把握する必要がある。

【執行残額について】

入札差金：上越妙高駅イルミネーション設置撤去業務委託料 92

その他：上越妙高駅前への企業進出に係る補助金が当初見込みを下回ったため 6,050

旅費や消耗品費等の実績が当初見込みを下回ったため 105

(単位：千円)

決算書 (P138～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
68,525	68,403			67,200		1,203
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	122				122	

## 【目的】

沿線の関係団体や関係機関と連携し、在来鉄道（えちごトキめき鉄道、ほくほく線、信越本線）の利便性の維持・向上及び利用促進を図るとともに、えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)の経営安定化に向けた支援を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

市民の通学や通勤、買い物などの移動手段であり、地域経済を支える重要な社会インフラである在来線の安全で安定した運行を維持するため、えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)の経営安定化を図る支援を行う。また、運行ダイヤや乗り継ぎなど利便性や快適性が向上するよう鉄道事業者等へ働きかけを行うとともに、県及び沿線自治体、鉄道事業者、関係団体等と連携して利用促進や沿線交流の活性化を図る。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) えちごトキめき鉄道やほくほく線の利用促進

## ・「雪月花」の他路線乗り入れに対する支援

「えちごトキめきリゾート雪月花」が、しなの鉄道の観光列車「ろくもん」との相互乗り入れを実施する際に、列車の出迎えや見送り等のおもてなしに協力し、駅の賑わい創出や交流促進を図った。

実施時期：平成31年4月5日（金）、13日（土）

実施内容：上越商工会議所やおもてなし武将隊、一般市民、保育園児らとともに、高田駅や直江津駅のホームで、乗客の出迎え・見送りを実施した。

## ・「ほくほく線 きっぷを撮って得しちゃおう！」企画の実施

定期券や回数券を除く、ほくほく線区間を含む乗車券をスマートフォン等で撮影し、画像を沿線の対象施設に提示することで、施設の入館料割引等のサービス特典を受けることができる企画を沿線市とともに支援し、ほくほく線の利用促進を図った。

実施期間：令和元年8月10日（土）から（事業継続中）

対象施設：22施設（うち上越市9施設）

決算書 (P138～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

・「トキてつ×ほくほく 駅スタンプラリー2019」の実施

県や沿線市、えちごトキめき鉄道(株)で構成する「えちごトキめき鉄道活性化協議会」において、えちごトキめき鉄道(株)と北越急行(株)が実施したスタンプラリーを沿線市とともに支援し、鉄道の楽しさを感じてもらおうとともに、在来線の利用促進を図った。

実施期間：令和元年7月19日(金)～9月1日(日)

実施区間：日本海ひすいライン(直江津駅～市振駅)、妙高はねうまライン(直江津駅～妙高高原駅)、ほくほく線(犀潟駅～六日町駅)

スタンプ設置駅：日本海ひすいライン3駅、妙高はねうまライン8駅、ほくほく線10駅(計21駅)  
景品引換人数：わくわく賞364人、トキ鉄制覇賞128人、ほくほく線制覇賞125人、全駅制覇賞100人(計717人)

※わくわく賞は参加者の増加を図るため、5駅分のスタンプで応募できる賞を新たに設けたもの

(2) えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金

県及び沿線市で締結した『並行在来線への投資・支援スキーム』に関する覚書に基づき、えちごトキめき鉄道安定経営支援補助金を交付した。

年度	補助金額	補助金の使途
平成29年度	85,359	吊架線張り替え、き電線張り替え、可動ブラケット取替え、電車線支持用鋼管下束の取替え、高圧変圧器取替え、電子踏切制御器取替え、大型支障物検知装置取替え、橋梁ペイント塗り替え
平成30年度	62,595	吊架線張り替え、き電線張り替え、可動ブラケット取替え、高圧変圧器取替え、電子踏切制御装置取替え、連絡遮断装置取替え、大型支障物検知装置取替え、橋梁ペイント塗り替え
令和元年度	62,207	き電線張り替え、可動ブラケット取替え、連絡遮断装置取替え、トンネル鋼管下束修繕、電気転てつ機取替え、橋梁ペイント塗り替え、橋梁修繕

(3) 北越急行安全輸送設備等整備事業補助金

北越急行(株)の経営安定化に向け、同社が行う国庫補助事業に対して県及び沿線自治体が協調補助を行うスキームに基づき、北越急行安全輸送設備等整備事業補助金を交付した。

年度	補助金額	補助金の使途
平成29年度	7,988	ハンガー更新、レール更新、遮断器更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、列車無線装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強、鉄筋コンクリート桁補強、車両の全般検査、車両の重要部検査
平成30年度	2,332	ハンガー更新、レール更新、遮断器更新、融雪設備更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、覆工コンクリート補強
令和元年度	5,173	ハンガー更新、碼子更新、レール更新、自動列車停止装置更新、変圧器更新、列車集中制御装置更新、鉄筋コンクリート補強

(4) 信越本線の利便性向上及び利用促進

国及びJR東日本に対し、上越・北陸新幹線直行特急実現期成同盟会や新潟県鉄道整備促進協議会を通じて、優等列車の充実、上越新幹線及び北陸新幹線との接続性確保、悪天候時等における安定輸送の確保など、在来鉄道の利便性向上や利用促進について要望活動を実施した。

決算書 (P138～P139)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	並行在来線対策事業		

○目標達成状況

- ・令和 2 年 3 月 14 日（土）のダイヤ改正において、えちごトキめき鉄道では、はねうまラインの運転時刻が変更され、北陸新幹線の東京方面行の最終便との接続時間が改善されるなど、利用者の利便性の向上が図られた。
- ・ほくほく線では、超快速「スノーラビット号」の所要時間の増加を最小限にとどめながら停車駅が追加され、沿線地域の利便性の向上が図られた。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し、両社への補助金を交付し、経営安定化を支援した。
- ・駅スタンプラリーなどのイベントを通じ、沿線自治体や関係団体と連携して利用促進を図った。

【事業の成果】

- ・えちごトキめき鉄道及びほくほく線については、新幹線との接続改善等により、利便性の維持・向上を図ることができた。
- ・えちごトキめき鉄道(株)及び北越急行(株)が行う鉄道施設総合安全対策事業等に対し補助金を交付することで、両社の経営安定化と鉄道の安全安定輸送に資することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・在来鉄道の利用増加とマイレール意識の醸成を図るため、引き続き、鉄道事業者及び県・沿線市と連携して利用促進に努めるとともに、利用促進団体等の支援や市民協働による利用促進の取組を推進する。
- ・県及び沿線自治体と連携して、えちごトキめき鉄道(株)と北越急行(株)に対し、経営安定化に向けた支援を継続する。
- ・大雨や強風による災害、車両の不具合により列車の遅延や運休が発生した場合に備え、鉄道事業者に対し、運行情報の適時な周知とバス等による代替運行の体制を整えるよう求めていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による三セク鉄道の運行状況や乗降客数の動向を把握し、必要に応じて適切な対応を検討していく必要がある。

【執行残額について】

その他：旅費等の実績が当初見込みを下回ったため 122

(単位：千円)

決算書 (P138～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,923	9,613				1,429 (使用料助)	8,184
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	310				310	

## 【目的】

郷土の歴史的建造物を活用し、市民が集い、交流する場を提供することにより、賑わいと活力のある地域社会の形成を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 29,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 街なか回遊の拠点としての活用

- ・高田の街歩きを行う市民や観光客の休憩スペースとして利用されたほか、パンフレットなどを設置し、市内の観光地や文化に関する情報を提供した。
- ・令和2年3月から高田世界館前の交流広場の供用を開始した。

## (2) 集会・イベント、文化活動などの場の提供

地域住民の会議や集会、習い事など、交流や文化活動、憩いの場として利用された。

## (3) 高田の歴史・文化の紹介

ギャラリーを活用し、高田ならではの雁木や町家を解説した紹介パネルのほか、懐かしい暮らしや街なみの写真を展示した。

## (4) 物品販売の継続実施

街なか回遊における拠点施設としての機能を強化するため、通年で物品販売の社会実験を行った。

## (5) 高田小町の維持管理 9,613

- ・修繕料 1,045 (室外機コンプレッサ修繕、自動ドア部品交換ほか)
- ・委託料 6,967 (施設総合管理業務、自動ドア保守点検業務ほか)
- ・消耗品費、光熱水費ほか 1,601

決算書 (P138～P139)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	町家交流館高田小町管理運営費		

○施設の管理実績

＜入館者数及び貸室利用状況＞

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成29年度	27,846	1,418	17,271	1,706,830
平成30年度	28,785	1,312	14,095	1,420,451
令和元年度	28,777	1,533	14,918	1,379,874

＜令和元年度施設別の貸室利用件数及び人数＞ (単位：件・人)

ギャラリー1		ギャラリー2		和室1(8畳)		和室2(15畳)		多目的ホール		交流サロン		計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
-	-	84	1,413	581	2,492	492	3,201	368	7,802	8	10	1,533	14,918

※ギャラリー1は、平成30年7月1日から物品販売の社会実験のため、市が占有

＜施設管理における市の収支状況＞

区分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	1,707	1,420	1,503	1,380
	その他	52	377	49	49
	合計	1,759	1,797	1,552	1,429
②支出	施設維持管理費	8,048	9,625	9,423	9,613
	うち委託料	6,028	6,989	7,446	6,967
	その他	-	-	-	-
	合計	8,048	9,625	9,423	9,613
③公費投入額(②-①)		6,289	7,828	7,871	8,184
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		226	272	271	284

○目標達成状況

入館者数 28,777人

【事業の成果】

- ・地域住民や市民団体等の集会や文化活動など、様々な用途で利用された。
- ・高田世界館前の交流広場の供用を開始し、街歩きの拠点性を高めることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月の入館者数が前年度と比べ半減し、入館者数が目標を下回ったが、引き続き市民や文化団体等による高田小町及び交流広場の利用を促進し、市民が集い交流する場の提供を通して、地域の賑わい創出につなげていく。

【執行残額について】

その他：当初見込みを下回ったことによる燃料費、施設管理委託料等の残 310

(単位：千円)

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
351,530	350,458		23,792			326,666
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,072	240		121	711	

## 【目的】

- 上越市地域公共交通活性化協議会負担金：市民ニーズや地域の特性に応じた地域公共交通の充実に向け、市民、交通事業者、行政等が連携・協力し、効率的で利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。
- バス運行対策費補助金：児童生徒の通学や高齢者の通院など、市民の日常生活を支える重要な交通手段である路線バスや乗合タクシーの運行に対し補助を行い、生活交通を維持・確保する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■上越市地域公共交通活性化協議会負担金 731

## ○令和元年度目標

まちづくりの基盤となる公共交通ネットワークを構築するため、平成30年度に行った路線バスの乗降調査や住民アンケート調査の結果を基に、各地域の実情にあった運行形態やルート、本数等の公共交通の再編・見直しについて住民と協議し、実効性の高い次期総合公共交通計画を策定する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・平成30年度に実施した乗降調査等の結果を踏まえ作成したバス路線の再編案について、利用者や地域住民、地区懇話会及び地域協議会と協議等を行い、第2次総合公共交通計画を策定した。
- ・公共交通の利用促進を図るため、北陸新幹線や在来線、路線バスなど市内で運行している全ての公共交通の運行時刻や令和2年4月のダイヤ改正等の情報をまとめた「上越市内公共交通総合時刻表」を作成し、市窓口やバス案内所等で配布した。
- ・公共交通機関による通学を啓発する資料を作成し、市内中学校の卒業生に配布したほか、運転免許証返納者や高齢者向けに公共交通の割引情報をまとめたリーフレットを作成し、警察署や高齢者サロン等で配布した。また、路線バスに小学生以下50円、中・高校生100円で乗車できる「夏休み『バス乗車体験』キャンペーン」に合わせ、市営バスにおいても小・中学生及び高校生を対象に運賃割引を行い、市内全域で乗車体験キャンペーンを実施した。

決算書 (P138～P141)	2 款 1 項 7 目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

○目標達成状況

- ・13 区に設置している地区公共交通懇話会や、各地域で開催した懇談会等において、地域の移動実態やバスの利用状況等を説明し、バス路線の再編・見直しについて協議を重ねながら、地域住民との合意形成を図った上で、令和 2 年度から令和 9 年度を計画期間とする第 2 次総合公共交通計画を策定した。

■バス運行対策費補助金 347,207

○令和元年度目標

市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシー73 系統の運行を維持・確保する。

○実施内容、これまでの経過等

市民の日常生活を支える路線バスや乗合タクシーの運行を維持・確保するため、バス事業者（5 社）及びタクシー事業者（2 社）に補助金を交付した。

<補助区分別系統数及び市補助金額>

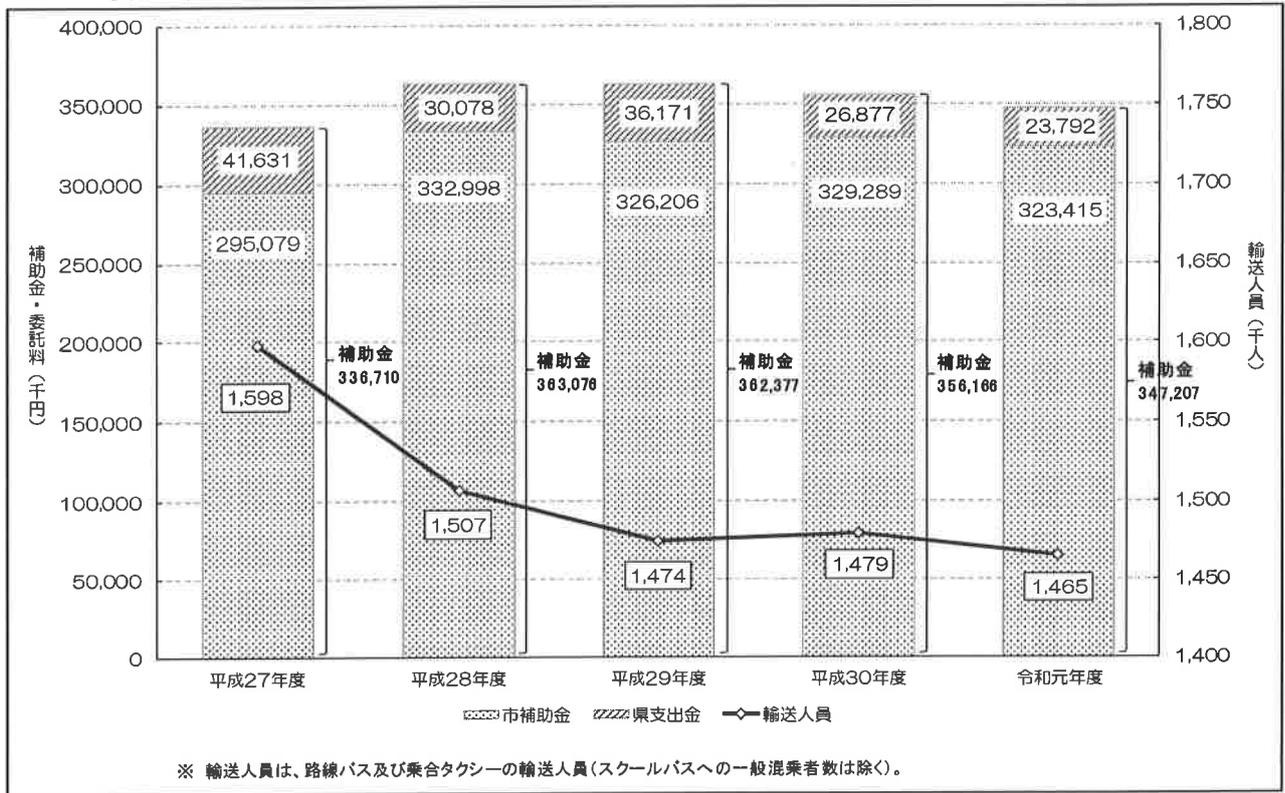
路線種別	系統数		補助金額	備考
	当初	実績		
国庫補助路線 (幹線系統)	6	6	50,250	低収益路線の収入不足及び欠損から国庫補助、県協調補助を差し引いた額を負担
国庫補助路線 (フィーダー系統)	21	21	36,319	負担割合：国 50%
県単独補助路線	12	12	66,211	負担割合：県 35%～40%、市 65%～60%
市単独補助路線	34	34	194,427	負担割合：市 100%
合計	73	73	347,207	

○目標達成状況

市民の生活交通を確保するため、バス路線の運行補助を行い、73 系統を維持した。

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

<バス運行に関する補助金及び輸送人員の推移>



【事業の成果】

- ・市民の日常生活の移手段の確保と持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、各地域のバス路線の再編方針と利用促進策や、住民主体の互助及び近所の助け合いによる輸送の取組についてまとめた第2次総合公共交通計画を策定した。
- ・公共交通の割引情報の周知を図ることにより、「おでかけフリー定期券」などの割引乗車券の販売枚数が増加したほか、「夏休み『バス乗車体験』キャンペーン」の実施により、期間中の小・中・高校生の路線バス利用者が前年比約10%増加するなど、路線バスの利用促進が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・第2次総合公共交通計画に基づき、地域と協議を重ねながら、バス路線の効率化や乗合タクシー等への運行形態の転換、利用者が少ない路線の廃止などを行う一方で、住民主体の互助や近所の助け合いによる輸送の取組への支援を行い、持続可能な交通ネットワークの構築に向けた取組を進める。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によるバスの運行状況や利用者数の動向を把握し、必要に応じて適切な対応を検討していく必要がある。

【執行残額について】

事業費節減：総合時刻表や啓発資料の仕様や配布方法を見直したため 240  
 入札差金：総合時刻表及び啓発資料等の作成 121  
 その他：バス運行対策費補助金や協議会会議費等が当初見込みを下回ったため 711

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

<参考>令和元年度路線別バス運行対策費補助金一覧

【国庫補助路線（地域間幹線系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数 (平日)	実車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用	経常収益
幹1	浜線	鞆の浜～柿崎病院前～柿崎バスターミナル	7.0	43,668.0	0.3	13,865,900	1,202,254
幹2	上越大通り線(1)	上越妙高駅前～市役所・労災病院前～鞆の浜	15.0	263,230.3	2.0	83,583,517	28,775,432
幹3	上越大通り線(3)	中央病院～上越妙高駅前～新井バスターミナル	12.0	129,510.1	2.2	41,123,342	16,653,790
幹4	直江津・浦川原線(1)	マルケーバスセンター～浦川原小学校前～浦川原バスターミナル	5.0	70,967.2	2.0	22,534,215	8,429,038
幹5	宮口線(1)	高田駅前～上牧～深山荘	5.0	73,344.1	2.2	21,191,310	7,487,642
幹6	宮口線(2)	高田駅前～中央病院～牧小学校前	5.0	48,153.4	1.7	13,912,961	4,413,414
6系統				628,873.1		196,211,245	66,961,570

【国庫補助路線（地域内フィーダー系統）】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数 (平日)	実車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用	経常収益
F1	柿崎黒岩線(2)	柿崎バスターミナル～米山寺・下灰庭～黒岩	3.0	11,584.8	0.8	4,512,279	466,955
F2	安塚線	うらがわら駅前～虫川大杉駅前～保健センター前	9.0	29,799.0	1.3	6,958,066	3,273,351
F3	島田線	高田駅前～岡原～曾根田	5.0	46,051.8	1.0	13,304,365	2,533,963
F4	佐内・直江津循環線	佐内入口～労災病院前～直江津駅前	4.0	23,859.2	0.7	6,902,466	911,895
F5	真砂・岡田線	高田駅前～真砂寺前～北坪山上	4.0	27,332.4	1.1	7,896,330	1,514,337
F6	直江津・浦川原線(2)	保倉川橋～青野十文字～マルケーバスセンター	2.0	21,432.6	0.9	6,805,493	1,292,301
F7	大平線(1)	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～大島コミュニティプラザ前	3.0	16,484.4	0.5	3,849,107	605,184
F8	大平線(2)	浦川原小学校前～虫川大杉駅前～小谷島	2.0	7,519.2	0.4	1,755,733	276,049
F9	吉川西節循環線(くびき駅経由)	吉川区総合事務所前～くびき駅前～吉川区総合事務所前	4.0	19,236.5	1.7	7,492,616	1,133,268
F10	吉川西節循環線(上下浜駅経由)	吉川区総合事務所前～上下浜駅前～吉川区総合事務所前	4.0	18,546.2	6.8	7,223,744	4,894,951
F11	青柳線(1)	高田駅前～中央病院・下稻塚～青柳	1.0	14,248.6	1.1	4,116,420	708,562
F12	青柳線(2)	高田駅前～中央病院・松野木～青柳	1.0	18,597.0	1.2	5,372,673	798,480
F13	岡沢ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	4.0	-	-	6,828,648	721,770
F14	関山ルート(予約運行便)	新井バスターミナル～姫川原～コメリ前	3.0	-	-	5,344,580	591,300
F15	月影・下保倉・末広ルート(1)	谷～浦川原区中心部～うらがわら駅前	12.0	-	-	4,837,492	894,593
F16	月影・下保倉・末広ルート(2)	谷～浦川原区中心部～うらがわら駅前	0.6	-	-	235,853	9,071
F17	上柿野ルート	うらがわら駅前～上柿野～うらがわら駅前	2.0	-	-	104,317	9,668
F18	小麦平ルート	うらがわら駅前～小麦平～うらがわら駅前	2.0	-	-	108,574	22,974
F19	名立区自家用有償旅客運送(1)	うみてらす名立前～ろばた館前～東飛山	2.0	22,822.8	-	4,368,283	494,800
F20	名立区自家用有償旅客運送(2)	コミュニティプラザ前～ろばた館前～東飛山	5.0	37,398.1	-	7,157,996	521,400
F21	名立区自家用有償旅客運送(3)	コミュニティプラザ前～名立駅前～宝田小学校前	2.5	3,777.4	-	722,994	2,000
21系統				318,690.0		105,898,029	21,676,872

【県単補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数 (平日)	実車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用	経常収益
県1	南川線(1)	労災病院前～市村～海洋センター前・頸城中学校前	5.0	35,168.0	1.6	10,174,102	3,725,660
県2	南川線(2)	労災病院前～島田～海洋センター前	5.1	42,734.0	2.0	12,362,946	5,107,059
県3	教育大学線(1)	中央病院～教育大学～直江津駅前	6.0	59,933.0	2.0	17,338,616	6,799,388
県4	春日山線(1)	直江津駅前～春日山下～中央病院	4.0	40,920.8	2.0	11,838,387	4,923,106
県5	春日山線(2)	直江津駅前～春日山下～悠久の里前	4.0	40,740.5	1.8	11,786,226	4,299,177
県6	富岡線	高田駅前～富岡～マルケーバスセンター	7.5	85,760.1	3.0	24,810,396	16,066,837
県7	能生線	能生案内所～名立車庫前～労災病院前	2.0	35,496.0	2.0	10,268,992	3,114,351
県8	水科・今保線	高田駅前～番町～杉林入口	4.0	23,606.7	1.6	6,819,975	1,431,846
県9	新井・板倉線(2)	新井バスターミナル～針～板倉コミュニティプラザ前	5.5	17,780.2	2.6	7,149,418	3,729,371
県10	山直海線(2)	柿崎バスターミナル～原の町～村屋	4.0	28,469.7	2.1	11,088,948	3,312,551
県11	犀潟駅線	海洋センター前～犀潟駅前～海洋センター前	3.5	19,063.1	2.3	7,425,077	2,859,347
県12	柳町線	海洋センター前～柳町～海洋センター前	3.0	10,724.8	1.7	4,177,309	1,643,517
12系統				440,396.9		135,240,392	57,012,210

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【単位：円】

経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①		市補助金 ④		系統 番号	
				国→事業者	県→事業者	国・県制度に よる補助	市独自補助		計
12,663,646	8.6%	6,248,000	12,663,646	3,124,000	3,124,000	3,944,000	2,471,000	6,415,000	幹1
54,808,085	34.4%	38,748,000	54,808,085	19,374,000	19,374,000	16,060,000	0	16,060,000	幹2
24,469,552	40.4%	15,331,000	24,469,552	7,665,000	7,665,000	3,617,000	0	3,617,000	幹3
14,105,177	37.4%	10,508,000	14,105,177	5,254,000	0	0	8,851,000	8,851,000	幹4
13,703,668	35.3%	11,879,000	13,703,668	4,766,500	0	0	8,937,000	8,937,000	幹5
9,499,547	31.7%	6,259,000	9,499,547	3,129,500	0	0	6,370,000	6,370,000	幹6
129,249,675	34.1%	88,973,000	129,249,675	43,313,000	30,163,000	23,621,000	26,629,000	50,250,000	

経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①		市補助金 ④		系統 番号	
				国→事業者	県→事業者	国・県制度に よる補助	市独自補助		計
4,045,324	10.3%	3,435,000	4,045,324	1,571,000	0	0	2,474,000	2,474,000	F1
3,684,715	47.0%	3,686,000	3,684,715	1,685,000	0	0	1,999,000	1,999,000	F2
10,770,402	19.0%	10,771,000	10,770,402	4,924,000	0	0	5,846,000	5,846,000	F3
5,990,571	13.2%	6,664,000	5,990,571	3,047,000	0	0	2,943,000	2,943,000	F4
6,381,993	19.1%	6,382,000	6,381,993	2,917,000	0	0	3,464,000	3,464,000	F5
5,513,192	18.9%	5,513,000	5,513,192	2,520,000	0	0	2,993,000	2,993,000	F6
3,243,923	15.7%	3,245,000	3,243,923	1,483,000	0	0	1,760,000	1,760,000	F7
1,479,684	15.7%	1,480,000	1,479,684	676,000	0	0	803,000	803,000	F8
6,359,348	15.1%	5,346,000	6,359,348	2,443,000	0	0	3,916,000	3,916,000	F9
2,328,793	67.7%	1,351,000	2,328,793	617,000	0	0	1,711,000	1,711,000	F10
3,407,858	17.2%	3,408,000	3,407,858	1,557,000	0	0	1,850,000	1,850,000	F11
4,574,193	14.8%	4,574,000	4,574,193	2,090,000	0	0	2,484,000	2,484,000	F12
6,106,878	10.5%	3,400,000	6,106,878	1,555,000	0	0	496,000	496,000	F13
4,753,280	11.0%	4,420,000	4,753,280	2,210,000	0	0	590,000	590,000	F14
3,942,899	18.4%	2,626,000	3,942,899	1,201,000	0	0	2,741,000	2,741,000	F15
226,782	3.8%	182,000	226,782	83,000	0	0	143,000	143,000	F16
94,649	9.2%	70,000	94,649	31,000	0	0	63,000	63,000	F17
85,600	21.1%	92,000	85,600	42,000	0	0	43,000	43,000	F18
3,873,483	11.3%	3,873,000	3,873,483	1,771,000	0	0	0	0	F19
6,636,596	7.2%	6,636,000	6,636,596	3,033,000	0	0	0	0	F20
720,994	0.2%	720,000	720,994	329,000	0	0	0	0	F21
84,221,157	20.4%	77,874,000	84,221,157	35,785,000	0	0	36,319,000	36,319,000	

経常欠損	収支率	県単補助 対象経費	市単補助 対象経費	国庫補助金 ①		市補助金 ④		市補助金 ③+④	系統 番号
				国→事業者	県→市→事業者	国・県制度に よる補助	市独自補助		
6,448,442	36.6%	5,429,000	6,448,442	0	2,035,000	2,035,000	1,523,000	5,593,000	県1
7,255,887	41.3%	6,995,000	7,255,887	0	2,623,000	2,623,000	971,000	6,217,000	県2
10,539,228	39.2%	9,204,000	10,539,228	0	3,451,000	3,451,000	2,180,000	9,082,000	県3
6,915,281	41.5%	7,131,000	6,915,281	0	2,674,000	2,674,000	572,000	5,920,000	県4
7,487,049	36.4%	7,368,000	7,487,049	0	2,763,000	2,763,000	971,000	6,497,000	県5
8,743,559	64.7%	7,361,000	8,743,559	0	2,760,000	2,760,000	1,139,000	6,659,000	県6
7,154,641	30.3%	6,609,000	7,154,641	0	1,644,000	1,644,000	886,000	4,174,000	県7
5,388,129	20.9%	7,558,000	5,388,129	0	1,571,000	1,571,000	2,246,000	5,388,000	県8
3,420,047	52.1%	2,859,000	3,420,047	0	604,000	604,000	599,000	1,807,000	県9
7,776,397	29.8%	5,699,000	7,776,397	0	1,761,000	1,761,000	4,254,000	7,776,000	県10
4,565,730	38.5%	3,124,000	4,565,730	0	1,171,000	1,171,000	2,223,000	4,565,000	県11
2,533,792	39.3%	1,961,000	2,533,792	0	735,000	735,000	1,063,000	2,533,000	県12
78,228,182	42.1%	71,298,000	78,228,182	0	23,792,000	23,792,000	18,627,000	66,211,000	

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【市単補助路線】

系統番号	路線名	起点～(主な経由地)～終点	運行回数 (平日)	実車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用	経常収益
市1	山麓線	直江津駅前～医療センター病院～上越妙高駅前	3.0	20,967.0	1.1	6,065,753	1,275,359
市2	謙信公大通り循環線	春日山駅前～上越総合病院～春日山駅前	6.0	23,265.6	1.0	6,730,738	1,393,936
市3	春日山駅・アルカディアシャトル便	春日山駅前～リージョンプラザ～上越総合病院	0.0	14,136.0	1.2	4,089,544	774,448
市4	謙信公大通り線	イトーヨーカドー前～国府新町～上越総合病院	1.5	2,664.9	1.3	770,955	297,931
市5	桑取線	労災病院前～有間川橋～くわどり湯ったり村	5.0	77,174.6	1.4	22,326,611	5,673,732
市6	青柳線(1)	高田駅前～下稻塚～青柳	3.0	27,334.5	1.1	7,896,937	1,650,952
市7	青柳線(2)	高田駅前～松野木～青柳	2.5	33,951.1	1.3	9,808,472	1,858,924
市8	浦川原線	高田駅前～番町～浦川原バスターミナル	5.0	76,115.2	1.3	21,989,681	5,286,016
市9	増田線(1)	高田駅前～横曽根～くびき駅前	3.0	27,474.0	0.9	7,937,238	1,329,457
市10	斐太線	新井バスターミナル～飛田～高田駅前	3.0	17,641.2	0.5	5,096,542	617,733
市11	正善寺線	大手町十字路・西城病院前～下正善寺～上正善寺	4.0	16,623.8	0.7	4,802,615	932,979
市12	青田線	高田駅前～中田原～青田	3.0	10,845.0	0.6	3,133,120	513,066
市13	菟立線	板倉中学校～菟立	6.5	15,113.8	0.3	6,077,258	473,277
市14	三針線	板倉コミュニティプラザ前～下稻塚～清里区総合事務所前	5.0	7,915.3	0.4	3,182,742	324,564
市15	泉谷・勝穂循環線(2)	原之町～平等寺～原之町	2.0	7,567.4	0.0	2,947,502	33,654
市16	くびき駅線	海洋センター前～くびき駅前～海洋センター前	3.5	21,641.8	1.0	8,429,481	1,100,619
市17	柿崎上直海線	柿崎バスターミナル～上直海～柿崎バスターミナル	2.0	157.0	1.3	61,151	11,388
市18	増田線(2)	柿崎バスターミナル～長峰～森本	4.0	19,062.2	0.2	7,424,726	250,329
市19	柿崎水野線	柿崎バスターミナル～米山寺～水野	3.0	9,579.3	0.3	3,731,137	229,962
市20	教育大学線(2)	パロー上越店前～教育大学～直江津駅前	2.5	28,003.9	1.6	8,101,528	2,558,745
市21	青柳線(3)	高田駅前～下稻塚～赤池	3.5	34,505.1	1.6	9,968,523	3,081,124
市22	山寺薬師線	板倉中学校～山寺薬師	7.0	27,392.3	0.4	11,014,443	948,978
市23	新井・板倉線(1)	けいなん総合病院～針～板倉コミュニティプラザ前	6.0	23,837.4	1.0	9,585,018	1,889,799
市24	柿崎黒岩線(1)	柿崎バスターミナル～米山寺～黒岩	3.0	9,545.1	0.3	3,717,816	198,303
市25	山直海線(1)	柿崎バスターミナル～村屋～尾神	5.0	49,957.5	1.5	19,458,446	3,960,224
市26	東西ルート	うらがわら駅前～浦川原区・大島区～大島コミュニティプラザ前	4.0	-	-	1,465,907	37,524
市27	岡沢ルート(定時運行)	新井バスターミナル～中郷区総合事務所前～岡沢	1.0	-	-	2,629,336	114,100
市28	関山ルート(定時運行)	新井バスターミナル～姫川原～コメリ前	0.5	-	-	1,170,416	166,900
市29	名立線(1)	労災病院前～うみてらす名立前～コミュニティプラザ前	3.0	39,530.4	0.5	11,436,144	1,294,546
市30	春日山・佐内線	佐内入口～春日山下～中央病院・悠久の里前	2.0	29,031.7	1.4	8,398,870	2,125,219
市31	直江津・浦川原線(3)	マルケープバスセンター～労災病院前～浦川原バスターミナル	2.0	20,436.8	1.3	6,489,297	1,503,748
市32	上関田線	板倉中学校～上関田	6.5	26,684.2	0.6	10,729,716	1,154,309
市33	泉谷・勝穂循環線(1)	原之町～後生寺～吉川小学校前	5.0	21,458.7	1.7	8,358,163	1,689,886
市34	黒井駅線	海洋センター前～黒井駅南口～海洋センター前	3.5	31,327.8	1.1	12,202,178	2,605,239
34系統		小計		770,940.6		257,228,004	47,356,970

【合計】

系統番号	合計	運行回数 (平日)	実車 走行キロ	平均乗 車密度	経常費用	経常収益
73系統	合計		2,158,900.6		694,577,670	193,007,622

決算書 (P138～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	交通政策課
事業名	地域公共交通運行対策費		

【単位：円】

経常欠損	収支率	国庫補助 対象経費	市庫補助 対象経費	国庫補助金 ①		市補助金 ④		市補助金 ③+④	系統 番号
				国→事業者	県→市→事業者	国・県制度に よる補助	市独自補助		
4,790,394	21.0%	0	4,280,896	0	0	0	4,280,000	4,280,000	市1
5,336,802	20.7%	0	4,771,448	0	0	0	4,771,000	4,771,000	市2
3,315,096	18.9%	0	2,971,592	0	0	0	2,971,000	2,971,000	市3
473,024	38.6%	0	408,267	0	0	0	408,000	408,000	市4
16,652,879	25.4%	0	14,777,537	0	0	0	14,777,000	14,777,000	市5
6,245,985	20.9%	0	6,245,985	0	0	0	6,245,000	6,245,000	市6
7,949,548	18.9%	0	7,949,548	0	0	0	7,949,000	7,949,000	市7
16,703,665	24.0%	0	16,703,665	0	0	0	16,703,000	16,703,000	市8
6,607,781	16.7%	0	6,607,781	0	0	0	6,607,000	6,607,000	市9
4,478,809	12.1%	0	4,478,809	0	0	0	2,533,000	2,533,000	市10
3,869,636	19.4%	0	3,869,636	0	0	0	3,869,000	3,869,000	市11
2,620,054	16.3%	0	2,620,054	0	0	0	2,585,000	2,585,000	市12
5,603,981	7.7%	0	5,603,981	0	0	0	5,603,000	5,603,000	市13
2,858,178	10.1%	0	2,858,178	0	0	0	2,858,000	2,858,000	市14
2,913,848	1.1%	0	2,913,848	0	0	0	2,913,000	2,913,000	市15
7,328,862	13.0%	0	7,328,862	0	0	0	7,328,000	7,328,000	市16
49,763	18.6%	0	49,763	0	0	0	49,000	49,000	市17
7,174,397	3.3%	0	7,174,397	0	0	0	7,174,000	7,174,000	市18
3,501,175	6.1%	0	3,501,175	0	0	0	3,501,000	3,501,000	市19
5,542,783	31.5%	0	4,862,288	0	0	0	4,862,000	4,862,000	市20
6,887,399	30.9%	0	6,887,399	0	0	0	6,887,000	6,887,000	市21
10,065,465	8.6%	0	10,065,465	0	0	0	10,065,000	10,065,000	市22
7,695,219	19.7%	0	7,695,219	0	0	0	3,475,000	3,475,000	市23
3,519,513	5.3%	0	3,519,513	0	0	0	3,519,000	3,519,000	市24
15,498,222	20.3%	0	15,498,222	0	0	0	15,498,000	15,498,000	市25
1,428,383	2.5%	0	1,428,383	0	0	0	1,428,000	1,428,000	市26
2,515,236	4.3%	0	1,036,187	0	0	0	724,000	724,000	市27
1,003,516	14.2%	0	713,400	0	0	0	345,000	345,000	市28
10,141,598	11.3%	0	9,181,010	0	0	0	9,181,000	9,181,000	市29
6,273,651	25.3%	0	5,568,181	0	0	0	5,568,000	5,568,000	市30
4,985,549	23.1%	0	3,912,004	0	0	0	3,912,000	3,912,000	市31
9,575,407	10.7%	0	9,575,407	0	0	0	9,575,000	9,575,000	市32
6,668,277	20.2%	0	6,668,277	0	0	0	6,668,000	6,668,000	市33
9,596,939	21.3%	0	9,596,939	0	0	0	9,596,000	9,596,000	市34
209,871,034	18.4%	0	201,323,316	0	0	0	194,427,000	194,427,000	

経常欠損	収支率	国庫・県庫 補助対象経費	市庫補助 対象経費	国・県補助金①+②		市補助金 ④		市補助金 ③+④
				国・県→事業者	県→市→事業者	国・県制度に よる補助	市独自補助	
501,570,048	27.7%	238,145,000	468,344,954	109,261,000	23,792,000	47,413,000	276,002,000	347,207,000

(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
751	750					750
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1				1	

## 【目的】

本市に居住し市外の大学等に通学する学生に対し奨学金（通学費）を貸し付け、卒業後の地元就職に対するインセンティブを設けることで将来にわたる定住を促す。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・高校生等に対して、広く制度の周知を図る。
- ・奨学金の貸付け、返還や免除に係る業務を円滑に行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

## ＜上越市定住促進奨学金制度の概要＞

開始年度：平成28年度

基金総額：2億円

対象者：次の要件のいずれにも該当する者

(1)上越市に居住する30歳未満の者

(2)大学、大学院、高等専門学校（専攻科を含む）及び専修学校（専門課程に限る）に在学する者

(3)主として公共交通機関（鉄道、路線バス等）を利用し、通学している者

貸付額：定期代の合計額の範囲内で、月額5万円まで

貸付期間：貸付決定の月から学校の最短修業年限の終期までの間で申込者が希望する期間

返還：貸付けが終了した月の翌月から起算して、6月を経過した後、4年以上8年以内の期間内に返済（無利子）

返還免除：返還期間中に本市に居住し、かつ、事業所等に就業したとき、その期間中における奨学金返還額の2/3相当額を免除

- ・広報上越やホームページに制度概要を掲載するとともに、市内高等学校への訪問による制度のPRや通学100分圏内の大学等及び公共交通機関へチラシ、ポスターの配布を行った。
- ・基金の適正な運用を図るとともに、公共交通機関を利用して市外の大学等へ通学する学生に対する奨学金の貸付けや、卒業後も市内に居住し就業している人の返還額の一部免除等を行った。

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

- ・これまでの利用実態や利用者の声、社会情勢の変化を踏まえ、本制度の改善を図った（令和2年度から実施）。

[改善内容]

- 貸付額：月額5万円までを月額6万円までに引き上げ
- 返 還：4年以上8年以内から4年以上16年以内に延長

○目標達成状況

- ・奨学金制度について広く周知を図るとともに、奨学生からの請求書や申請書類を速やかに審査するなど、貸付け・返還業務を円滑に行った。

【事業の成果】

<申込状況>

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合 計
20人	12人	18人	15人	65人

<令和元年度利用状況（令和2年3月末現在）>

貸付	返還		返還猶予	完済	その他
		うち免除			
28人	25人	21人	1人	1人	10人

※「その他」は、申込み後に辞退した者、貸付請求がなかった者の人数

- ・通学方法（乗り継いでいる場合があるので利用者数と一致しない）

新幹線	在来線	路線バス
6人	26人	2人

- ・通学先の市町村

県内（19人）			県外（9人）			
新潟市	長岡市	柏崎市	長野市	上田市	富山市	高崎市
1人	12人	6人	6人	1人	1人	1人

- ・学校種別

4年制大学（9人）		短期大学（1人）		専修学校（17人）		高等専門学校（1人）	
県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
6人	3人	0人	1人	13人	4人	0人	1人

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	企画政策課
事業名	定住促進奨学金貸付事業		

<貸付金残高の状況>

30年度末 現在高(A)	元年度			元年度末現在高 (A)+(B)-(C)-(D)
	貸付(B)	返還(C)	免除(D)	
14,435,650円	5,917,629円	668,798円	742,100円	18,942,381円

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・奨学金を必要とする人に適切に利用していただけるよう、引き続き、高等学校や大学等と連携して周知を図っていく。
- ・奨学金を利用する人や返還する人の意見を聴取するなど利用実態を的確に把握し、より利用しやすい制度となるよう必要に応じて改善を図っていく。

【執行残額について】

その他：定住促進奨学基金繰出金の端数残 1

(単位：千円)

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	ライオン像のある館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,374	2,602					2,602
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	772			13	759	

## 【目的】

直江津の近代史を今に伝える貴重な建物を適切に維持管理するとともに、地域の賑わい創出のため、施設の利用促進を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 8,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 施設の活用と直江津の歴史・文化の紹介

市民や当市を訪れた人が気軽に立ち寄れる施設として平成31年4月に供用開始し、趣のある本館ホールなどを活用して、建物や直江津の歴史・文化に関する展示を行った。

## (2) 地域の賑わい創出に向けた利活用の推進

市民団体や大学生等による演奏会や作品展などの活用に加え、当施設を起点として、直江津の歴史的資産を巡る街歩きを実施するなど、直江津の街なかの賑わい創出に取り組んだ。

## (3) 施設の維持管理 2,602

- ・修繕料 60 (多目的トイレ温水洗浄便座取替修繕ほか)
- ・委託料 1,924 (施設管理運営業務委託、機械警備業務委託ほか)
- ・消耗品、光熱水費ほか 618

## ○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成29年度	2,958	-	-	-
平成30年度	-	-	-	-
令和元年度	6,428	53	4,078	-

※平成30年度は、改修工事のため休館

決算書 (P140～P141)	2款1項7目 企画費	所管課等	文化振興課
事業名	ライオン像のある館管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	-	-	-	-
	その他	-	44	-	-
	合計	-	44	-	-
②支出	施設維持管理費	1,097	3,109	2,920	2,340
	うち委託料	1,008	52	1,941	1,751
	その他	16,282	83,759	454	262
	合計	17,379	86,868	3,374	2,602
③公費投入額(②-①)		17,379	86,824	3,374	2,602
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)		5,875	-	422	405

○目標達成状況

年間入館者数 6,428人

【事業の成果】

- ・水族博物館「うみがたり」を訪れた市民や観光客を当施設に誘導するため、上越教育大学と連携して、動物や生き物をモチーフにした作品展「てくてくつながれ！来ON☆ZOO」を小・中学校の夏休み期間中に開催し、親子連れの来館につなげることができた。
- ・当施設を拠点とした「北前船で栄えた直江津まち歩きツアー」を実施し、北前船にまつわる直江津の歴史や文化を周知・PRすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・臨時開館した夏休み期間中における平日の入館者数が伸びず、目標を下回ったが、今後も、水族博物館「うみがたり」を訪れる市民や観光客に当施設をPRするとともに、演奏会や作品展などの利活用を促進し、地域の賑わい創出につなげていく。

【執行残額について】

入札差金：印刷製本費 10、使用料及び賃借料 3

その他：当初見込みを下回ったことによる消耗品費、光熱水費等の残 759



上越教育大学作品展



北前船で栄えた直江津まち歩きツアー

(単位：千円)

決算書 (P144～P147)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
84,770	80,591			4,500	700 (借入金)	75,391
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,179			848	3,331	

## 【目的】

指定管理者と連携しながら、気軽に文化・芸術に触れる機会や文化活動の発表の場を市民へ提供し、市民の文化・芸術への関心を高めるとともに、市民ニーズに対応した事業を実施することで文化の向上を図る。

また、設備点検や施設改修に向けた取組を適切に行い、安全で利用しやすい環境を整える。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

鑑賞事業来場者の満足度 95.0%以上

※来場者へのアンケートで「良い」「どちらとも言えない」「良くない」の評価項目のうち、「良い」と評価した人の割合(鑑賞事業18事業の平均値)

## ○実施内容、これまでの経過等

## ＜指定管理の状況＞

導入開始年度：平成17年度

指定期間：令和元年度

指定管理者名：株式会社 NKS コーポレーション(本社：新潟市)

## ＜自主事業の内容＞

(単位：人)

区分	事業名	入場(参加)者数
鑑賞事業 単独事業	ごらく亭第二弾(落語)	149
	ファミリーコンサート～オーケストラで聴くジブリ音楽～	549
	若き演奏家の世界(クラシック)	488
	シエナ・スピリッツ上越公演2019(クラシック)	493
	あらしのよるに(朗読音楽劇)	148
	劇団レクラム舎 べっかんこ鬼(演劇)	25
	Small Compact Performance(中ホール)	
	サラ・オレイン、宮本貴奈(バイオリン&ピアノ)	171
柏木広樹、榊原大、藤原道山(チェロ&尺八)	175	

決算書 (P144～P147)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

区分	事業名	入場(参加)者数	
鑑賞事業	椎名豊クインテット (ジャズバンド)	158	
	水谷川優子、山宮るり子 (チェロ&ハープ)	124	
	小計 10事業	2,480	
	共催事業	新潟県音楽コンクール ピアノ部門	500
		はじめての落語	127
		劇団四季 エビータ	1,317
		中澤卓也コンサート	2,489
		山崎育三郎コンサート	861
	小計 5事業	5,294	
	創造事業	市民創作音楽劇 くびき野の歌	1,655
上越市民演劇祭		262	
小川未明フェスティバル 2019		151	
上越真夏の音楽会		307	
小計 4事業		2,375	
普及・育成事業	ポルトガルギター&マンドリン (湯浅隆、吉田剛士)	286	
	フラメンコ (鈴木眞澄、永瀧三貴生、尾藤大介)	697	
	和太鼓 (上田秀一郎)	504	
	打楽器アンサンブル (本間美恵子、倉澤桃子、藤島玲子)	363	
	古楽アンサンブル (細岡ゆき、なかやまはるみ、矢野薫)	236	
	上越マーチングバンド育成事業	443	
	小計 6事業	2,529	
合計	25事業	12,678	

新型コロナウイルス感染症の影響等により、4事業の実施を中止、1事業の実施を延期した。

※鑑賞事業 (単独) : 直接招へいする事業

※鑑賞事業 (共催) : テレビ局等の共催相手と共同で招へいする事業

※創造事業 : 新たな文化・芸術活動を創り出す市民参加型の事業

※普及事業・育成事業 : 町内会や小・中学校に出向いてのアウトリーチ、演劇や演奏のワークショップ等、市民の文化意識の向上を図ることを目的とする事業

決算書 (P144～P147)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

○施設の管理実績

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
利用件数	997件	856件	-	917件
利用者数	123,217人	100,371人	150,000人	103,152人

○指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				予算	実績
①収入	国庫支出金	30,000	-	-	-
	市債	-	20,000	6,500	4,500
	諸収入	1,000	-	2,600	700
	合計	31,000	20,000	9,100	5,200
②支出	指定管理委託料	64,200	63,800	65,900	65,900
	施設管理委託料	-	518	702	702
	設計業務委託料等	1,631	-	7,315	5,038
	施工監理委託料	-	1,167	-	-
	報償費	39	34	63	62
	費用弁償	1	1	3	3
	修繕料	7,658	7,454	2,501	2,501
	運搬料	-	-	3	3
	手数料	-	-	380	380
	施設整備工事	69,751	22,459	-	-
	備品購入費	3,746	3,024	2,970	2,969
	補助金・交付金	1,000	-	2,600	700
	指定管理者営業補填金	-	1,126	-	-
	新型コロナウイルス減収補填金 ※	-	-	2,333	2,333
合計	148,026	99,583	84,770	80,591	
③公費投入額 (②-①)		117,026	79,583	75,670	75,391
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)		950	793	504	731

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填するもの

(参考) 指定管理料の増減額

前指定期間の指定管理料平均額 (決算ベース)	①	64,200
令和元年度の指定管理料 (委託料)	②	65,900
指定管理料の増減額	②-①	1,700

※消費増税や近年の人件費の上昇により、指定管理料が増加した。

決算書 (P144～P147)	2款1項14目 上越文化会館運営費	所管課等	文化振興課
事業名	上越文化会館管理運営費		

○指定管理者の収支状況等

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
収入				
利用料金収入	19,086	16,455	20,500	13,977
指定管理委託料	64,200	63,800	65,900	65,900
市イベント等委託料等	5,037	2,657	-	-
補助金	3,338	865	9,047	※1 7,645
新型コロナウイルス減収補填金 ※2	-	-	-	2,333
その他(入場料等)	17,759	21,903	26,928	9,324
収入計 ①	109,420	105,680	122,375	99,179
支出 ②	110,334	117,332	122,375	106,868
差引 (①-②)	△914	△11,652	0	△7,689

※1…コミュニティ助成自治総合センター交付金(上越市民演劇祭)

地域の文化・芸術活動支援事業助成金、国民文化祭新潟県実行委員会負担金、国民文化祭上越市実行委員会負担金(くびき野の歌)

※2…新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填するもの

○目標達成状況

鑑賞事業来場者の満足度 94.4%

【事業の成果】

- ・鑑賞事業では、クラシック、ポピュラー音楽、ミュージカル、演劇、大衆芸能等の公演のほか、子ども向けの演奏会を開催するなど、幅広い年齢層の皆さんが、様々な文化・芸術作品に触れる機会を提供した。
- ・創造事業では、国民文化祭の市独自事業として市民創作音楽劇「くびき野の歌」を再演したほか、市内の演劇団体による「上越市民演劇祭」を初めて開催するなど、市民とともに舞台作品を創り上げる事業を展開した。
- ・普及・育成事業では、アーティストが小・中学校や町内会へ出向き出張公演を行う「アウトリーチ事業」を15か所で実施し、身近な場所でプロの演奏を気軽に鑑賞できる機会を提供した。
- ・施設の維持管理では、外壁改修工事の実設計を行い、令和2年3月に工事に着手したほか、令和元年11月に大ホール舞台機構設備の改修に着手した(いずれも債務負担行為に基づく発注)。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・指定管理者が実施した自主事業について、目標とした入場者数に及ばず、支出が収入を大きく超過する事業が見られた。今後は、市民ニーズの的確な把握と分析に努め、市民が求める公演等の見極めを行うとともに、民間のメディアやプロモーターとの共催事業を積極的に取り入れるなど、適切な鑑賞機会の提供と採算性の両立に取り組む必要がある。
- ・外壁改修工事による長期休館からの再開に備え、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、安全に利用していただける環境を確保する。

【執行残額について】

入札差金：委託料 848

その他：当初見込みを下回ったことによる委託料、負担金補助及び交付金等の残 3,331

(単位：千円)

決算書 (P150～P151)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
13,670	9,534	2,804		2,500	56 (使用料)	4,174
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,136			24	4,112	

## 【目的】

市内に残る明治期の貴重な洋風の建築物として適切に保存するとともに、更なる活用に向けた取組を通して、地域の賑わい創出及び文化の振興を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 7,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 集会、イベント、文化活動等の場の提供

明治期の貴重な洋風の建築物として当施設を公開したほか、百人一首や謡曲、茶道等の文化団体による活動の場として活用された。

## (2) 建物改修工事に向けた実施設計 5,609

市指定文化財としての保存と更なる活用を図るため、建物改修工事に向けた実施設計と外構測量を行った。

## (3) 施設の維持管理 3,925

- ・修繕料 207 (安楽椅子等貼替修繕)
- ・委託料 3,396 (管理受付業務、園庭樹木管理業務ほか)
- ・光熱水費、下水道使用料ほか 322

## ○施設の管理実績

<入館者数及び貸室利用状況>

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成29年度	7,497	92	1,144	69,540
平成30年度	6,215	93	1,262	80,200
令和元年度	5,987	82	609	55,570

※令和元年度は、改修工事に向けた準備のため1月から3月まで貸室は休止

決算書 (P150～P151)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	旧師団長官舎管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	70	80	68	56
	その他	-	-	-	-
	合計	70	80	68	56
②支出	施設維持管理費	4,529	3,783	4,935	3,925
	うち委託料	3,637	3,339	3,777	3,396
	その他	-	5,918	9,009	5,609
	合計	4,529	9,701	13,944	9,534
③公費投入額 (②-①)		4,459	9,621	13,876	9,478
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		595	1,548	1,982	1,583

○目標達成状況

入館者数 5,987人

【事業の成果】

- ・小学校の総合学習や文化団体等の施設見学などを通して、高田地区の歴史や文化に対する認知度を高める取組を進めることができた。
- ・旧師団長官舎の更なる活用に向けて、民間の利活用事業者をプロポーザル方式で選定するとともに、建物改修工事に向け、利活用事業者と協議しながら実施設計を行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

民間事業者によるレストランとして活用するため、建物の改修工事を計画的に進める。

【執行残額について】

入札差金：庭園樹木管理業務委託料 24

その他：当初見込みを下回ったことによる測量委託料、実施設計委託料等の残 4,112

(単位：千円)

決算書 (P150～P151)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,893 【16,063】	15,736				4,507 （借入金）	11,229
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	157			15	142	

## 【目的】

当市の文化振興に資するため、市民が気軽に文化・芸術に親しめる環境づくりを進めるとともに、市民参加が可能な文化事業の充実を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■市民の文化活動推進事業 15,685

## ○令和元年度目標

新潟県内で初めて開催される第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会を通して、地域文化の振興に寄与する。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 文化振興に関する情報の収集及び提供

市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、県文化振興財団などが行う助成事業の情報提供を行った。

## (2) 能狂言鑑賞教室

市民団体が主催する「久比岐能」公演と連携した「能狂言鑑賞教室」を開催し、中学生が日本の伝統文化に触れる機会を提供した。

期 日：令和元年10月8日（火）

会 場：上越文化会館

参加者数：281人（市内中学校7校）

## (3) 第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会開催費

新潟県内において初めて開催された第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会において、文化団体との連携事業や市の独自事業を実施するとともに、市内のイベントを始め、観光スポットや食などの情報を掲載したガイドブックを発行した。

<開催期間>

令和元年9月15日（日）～11月30日（土）

<当市実施内容>

## ①文化団体連携事業

決算書 (P150～P151)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

<太鼓の祭典>

令和元年東日本台風の影響により中止した。

開催予定期日：令和元年 10 月 13 日（日）

開催予定会場：上越文化会館

<合唱の祭典>

期 日：令和元年 11 月 10 日（日）

会 場：上越文化会館

出演団体数：27 団体

観客数：延べ 1,830 人（出演者含む）



合唱の祭典

②市町村独自事業

<市民創作音楽劇「くびき野の歌」>

期 日：令和元年 9 月 21 日（土）、9 月 22 日（日）

会 場：上越文化会館

出演者数：公募市民 41 人、上越交響楽団 55 人

観客数：1,655 人（2 日間合計）



市民創作音楽劇「くびき野の歌」

<高田まちかどフェスティバル>

期 日：令和元年 10 月 14 日（月・祝）

会 場：高田まちかど交流館

出演者数：13 組、122 人

観客数：延べ 850 人（パブリックビューイング含む）

<上越アール・ブリュット公募展>

期 日：令和元年 10 月 26 日（土）～10 月 29 日（火）

会 場：ミュゼ雪小町

展示作品数：19 人、約 400 点

来場者数：672 人

③ガイドブック「巡遊浪漫」の発行

市内で開催される国民文化祭事業のほか、市内の文化的なイベントを始め、観光・食等の情報を一冊のガイドブックにまとめて PR した。

発行部数：20,000 部

掲載事業数：102 事業

○目標達成状況

第 34 回国民文化祭・にいがた 2019、第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会は、一部実施できなかった事業があったものの、市内の文化団体や福祉団体と連携して、多彩なジャンルの文化・芸術事業を実施し、地域文化の振興や魅力発信につなげることができた。

■地域の歴史的・文化的資源の保存と継承 51

○令和元年度目標

市民団体との連携を継続し、地域の歴史的・文化的資産を広く発信する。

○実施内容、これまでの経過等

・高田瞽女顕彰事業

高田瞽女の文化を保存・発信する会と連携して、高田瞽女が訪れたゆかりの地を巡るツアーを実施した。また、同日に上越市立歴史博物館で、高田瞽女の常設展示の案内及び高田瞽女から指導を受けた演奏者による演奏会を開催した。

決算書 (P 150～P 151)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	文化振興企画費		

- (1) 高田瞽女ゆかりの地を巡るバスツアー  
 期 日：令和元年 6 月 16 日（日）  
 見 学 先：高田瞽女ゆかりの地（高田区、中郷区、妙高市）  
 参加者数：31 人
- (2) 瞽女唄演奏会  
 期 日：令和元年 6 月 16 日（日）  
 会 場：上越市立歴史博物館  
 来場者数：76 人

○目標達成状況

市民団体と連携しながら、高田瞽女の歴史や文化を知ってもらう機会を提供した。

【事業の成果】

- ・文化団体等へ情報提供を行い、自主的な文化・芸術活動を支援した。
- ・第 34 回国民文化祭・にいがた 2019、第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の開催を通して、改めてふるさとの歴史や文化への認識を深めるとともに、地域への愛着や誇りを感じてもらう機会とすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き、文化団体等への情報提供を行い、市民の文化・芸術活動の支援を行う。
- ・日本の伝統文化に触れる機会を通して、次世代を担う子どもたちの豊かな感性を培う取組を進めていく。
- ・第 34 回国民文化祭・にいがた 2019、第 19 回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会を機に生まれた新たな交流や連携の枠組みを生かし、今後の文化・芸術活動の促進につなげていく。

【執行残額について】

入 札 差 金：使用料及び賃借料 15  
 そ の 他：当初見込みを下回ったことによる報酬や共済費等の残 142

(単位：千円)

決算書 (P150～P151)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,663	7,588				713 (使用料、諸収入)	6,875
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	75			6	69	

## 【目的】

坂口記念館の適切な維持管理を行うとともに、文化勲章受章者で応用微生物学の世界的権威である坂口謹一郎博士を顕彰し、教育、学術及び文化の振興を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 5,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 坂口謹一郎博士の顕彰

- ・新潟県と連携して、第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭ににいがた大会のリレートーク企画「発酵と文化と坂口謹一郎博士」を開催し、食事や音楽を提供しながら博士の業績や人となりを紹介した。
- ・博士の生誕日(11月17日)を含めた3日間を入館無料デーとし、博士の業績に気軽に触れる機会を提供するとともに、坂口謹一郎博士顕彰委員会と連携して、発酵食品である甘酒の無料サービスを行った。

## (2) 定期的な事業の開催

- ・「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」や「ひなまつり」を開催した。
- ・地域の民間団体と連携し、「繭玉づくり体験教室」や「そば打ち体験」などのイベントを開催した。
- ・越後・謙信SAKEまつりにあわせ、会場内にある高田まちかど交流館において、坂口記念館のPRを行うとともに、博士にゆかりのある沖縄の泡盛「御酒(うさき)」の試飲を実施した。

## (3) 集会、文化活動等の場の提供

- ・市民等の各種会合や文化活動などの場として活用された。
- ・地酒の試飲・販売のほか、貸館時においては、発酵食品を使った郷土料理の提供を行った。

決算書 (P150～P151)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	坂口記念館管理運営費		

○施設の管理実績

＜入館者数及び貸館利用状況＞

年度	利用者数合計（人）			使用料（円）
	酒杜り館 入館者数(人)	楽縫庵占用 利用者数(人)		
平成29年度	4,947	3,264	1,683	710,610
平成30年度	5,090	3,220	1,870	768,690
令和元年度	4,409	2,718	1,691	653,720

＜施設管理における市の収支状況＞

区 分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	711	769	727	654
	その他	50	49	88	59
	合計	761	818	815	713
②支出	施設維持管理費	7,927	7,262	7,663	7,588
	うち委託料	5,011	5,110	5,308	5,302
	その他	-	-	-	-
	合計	7,927	7,262	7,663	7,588
③公費投入額（②－①）		7,166	6,444	6,848	6,875
④利用者1人当たりの 公費投入額（単位：円）		1,449	1,266	1,370	1,559

○目標達成状況

入館者数 4,409人

【事業の成果】

JRの新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン（10月1日～12月31日）により来越した関西方面からの団体客（10回延べ360人）に対し、発酵食品を取り入れた郷土料理を提供するとともに、坂口謹一郎博士の功績や「発酵のまち上越」をPRした。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」は天候不順等により、また、「ひなまつり」は新型コロナウイルス感染症の影響により入館者数が大きく減少したため、目標を達成することができなかった。
- ・今後は、一層の集客に向け、イベントの開催や庭園の雪椿の情報などを適時に発信するとともに、坂口謹一郎博士顕彰委員会や頸城区観光協会等と連携を図り、博士の顕彰と地域の活性化につながる取組を推進していく。

【執行残額について】

入札差金：委託料 6

その他：当初見込みを下回ったことによる修繕料等の残 69

(単位：千円)

決算書 (P150～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,543	8,812				450 (使用料、諸収入)	8,362
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	731		376	64	291	

## 【目的】

未明文学の紹介と関係資料の展示、各種講座等やおはなし会の開催を通じて、小川未明の業績やその作品を広く紹介し、教育、学術及び文化の振興を図る。

小川未明文学賞を開催することにより、次代を担う子どもたちの感性や想像力、郷土に対する愛着心や誇りを育む。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

■ソフト事業の実施 1,549

○令和元年度目標

各種講座の受講者の満足度 90.0%

※受講者へのアンケートで「大変良い」「良い」「どちらとも言えない」「良くない」「非常に良くない」の評価項目のうち、「大変良い」「良い」と評価した人の割合

○実施内容、これまでの経過等

(1) 特別展の開催

①特別展 第27回小川未明文学賞受賞記念展

大賞・優秀賞の受賞者が決定したことを記念して、受賞者の喜びの声や作品の講評のほか、贈呈式の様子などを紹介した。

会 期：平成31年4月2日(火)～4月24日(水)

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：2,317人

②特別展 未明と子どもたち

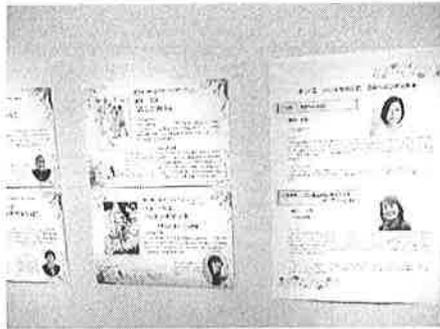
小川未明の6人の子どもたちが未明の創作活動に与えた影響や、子どもたちそれぞれの足跡を示す資料などを展示し、未明の芸術を愛する心が子どもたちに受け継がれていることを紹介した。また、未明の書く童話や未明の人間性に共感し、その思いを受け継いだ弟子や後輩たちなど「創作上の未明の子ども」と言える人々について紹介した。

会 期：令和元年10月12日(土)～12月1日(日)

会 場：小川未明文学館 市民ギャラリー

入館者数：4,061人

決算書 (P150～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		



特別展 文学賞受賞記念展



特別展 未明と子どもたち

## (2) 各種講座の開催

### ①文学館講座

小川未明や特別展にちなんだ講座を実施した（全3回）。

第1回 期 日：令和元年10月19日（土）

演 題：小川未明の死生観

講 師：小笠裕二氏（上越教育大学副学長・小川未明文学館専門指導員）

受講者数：29人

第2回 期 日：令和元年11月16日（土）

演 題：小川未明と子どもたち

講 師：小川英晴氏（未明の孫・詩人）

聴 き 手：小笠裕二氏（上越教育大学副学長・小川未明文学館専門指導員）

受講者数：31人

第3回 期 日：令和元年11月30日（土）

演 題：小川未明と坪田譲治の師弟愛

—「私は君のことを思わない日はない」—

講 師：山根知子氏（ノートルダム清心女子大学教授）

受講者数：37人

### ②童話創作講座

佐々木<sup>かくこ</sup>赫子氏（児童文学作家）を講師に迎え、童話の書き方に関する講座を実施した（全3回）。

期 日：令和元年6月15日（土）、7月20日（土）、7月27日（土）

受講者数：13人

### ③朗読研修会

橘由貴氏（朗読療法士・ヴォイスアーティスト）を講師に迎え、朗読の基礎や表現力について学ぶ研修会を実施した（全3回）。

期 日：令和元年6月7日（金）、6月28日（金）、7月5日（金）

受講者数：19人

## (3) 未明ボランティアネットワークによるおはなし会の開催

### ①文学館おはなし会

文学館の入館者を対象に、未明童話の朗読を行った。

実 施 日：毎月第2・第4日曜日

参加者数：全20回、延べ198人

決算書 (P 150～P 153)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

②出張おはなし会

市内の小学校・放課後児童クラブを訪問し、未明童話の朗読を行った。

参加者数：30 か所、1,315 人

(4) 子ども向け事業の開催

①小川未明文学館こども祭

未明童話「月とあざらし」をテーマにした工作やクイズを行った。

実施日：令和元年5月11日(土)

参加者数：203 人

②未明童話の小冊子の配布

数多くある未明童話を子どもたちに読んでもらうため、未明童話を月替わりで1作品ずつ冊子にして無償配布した。

参加者数：延べ606 人

(5) 文学館資料の収集・調査及び活用

・特集展示「四季の情景」(年間4回)

未明が感じた故郷の四季について、小説・随筆・詩・童話などの展示で紹介した。

○目標達成状況

各種講座の受講者の満足度 99.0%

■文学館の管理運営 3,356

○令和元年度目標

入館者数 27,000 人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 館報の刊行

館報(年刊)を刊行し、文学館の事業やボランティアの活動などを広く紹介した。

発行部数 1,000 部(5月刊行)

(2) 文学館専門指導員の設置

文学館の事業や運営、資料収集、展覧会の企画内容などについて、小川未明研究の第一人者である小埜裕二専門指導員(上越教育大学副学長)から指導や助言を受けながら、必要な資料の収集や効果的な資料展示を行った。

(3) 市民ギャラリーの貸館

市民の文化活動の推進のため、市民ギャラリーの貸館を行った。

＜入館者数及びギャラリー貸室利用状況＞

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成29年度	27,079	16	7,702	407,253
平成30年度	28,286	19	9,500	439,670
令和元年度	29,737	18	8,991	411,565

決算書 (P150～P153)	2 款 1 項 21 目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	小川未明文学館管理運営費		

○目標達成状況

入館者数 29,737 人

■小川未明文学賞の開催 3,907

○令和元年度目標

小川未明文学賞応募数 500 編

○実施内容、これまでの経過等

第 28 回小川未明文学賞

小川未明文学賞委員会へ交付金を交付

<応募数> 409 編 (短編部門 236 編・長編部門 173 編) (うち市民からの応募 13 編)

<受賞作> 大賞 (1 編) 「シャ・キ・ペシュ理容店のジョアン」 (長編部門)

北川 佳奈 (東京都)

優秀賞 (1 編) 「トリロン」 (長編部門)

かみや としこ (愛知県)

※贈呈式は新型コロナウイルス感染症の影響により延期

○目標達成状況

小川未明文学賞応募数 409 編

【事業の成果】

- ・特別展や特集展示、各種講座やおはなし会などの開催を通して、多くの人から小川未明の業績に触れ、未明作品に親んでもらうことができた。
- ・第 27 回小川未明文学賞の大賞受賞作の書籍化に伴い、文学賞委員会から市内の小・中学校へ当該書籍の寄贈を受けることとなり、未明の母校である大手町小学校において寄贈セレモニーを行った。大賞受賞者から子どもたちへ作品に込めた思いなどを伝えていただき、本や読書への興味とともに、小川未明や未明作品への関心を更に深めてもらう機会とすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・小川未明の作品や業績に関して市民の理解を深めていただくため、引き続き小川未明文学館の特別展や特集展示、各種講座を充実させていく。
- ・小川未明文学賞委員会などと連携し、作品募集についてより一層の周知を図るとともに、文学賞の開催を通して、市内外に広く小川未明や当市に関する情報を発信する。

【執行残額について】

事業未実施：文学賞贈呈式延期に伴う普通旅費、交付金 376

入札差金：印刷製本費、看板作成委託料 64

その他：当初見込みを下回ったことによる費用弁償、普通旅費、修繕料等の残 291

(単位：千円)

決算書 (P152～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田まちかど交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,827	6,888				176 (使用料)	6,712
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	939	416		59	464	

## 【目的】

昭和の高田界隈の歴史を感じることができる施設として適切に維持管理するとともに、地域の賑わい創出のため、施設の利用促進を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 26,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 街なか回遊の拠点としての活用

- ・観光や街歩きなどの立ち寄り処として、憩いのスペースを提供したほか、商店街の催しや観光スポットなどに関するパンフレット等を設置し、街なか回遊のための情報提供を行った。

## (2) イベント、文化活動等の場の提供

- ・観桜会や越後・謙信SAKEまつりなどの関連イベントの会場として活用されたほか、趣ある吹き抜け構造のホールを活用した演奏会や作品展などの文化活動の場として活用された。
- ・第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の市独自事業として、「高田まちかどフェスティバル」を開催し、音楽活動を行う13組の団体や個人の練習成果の発表と、市民が気軽に音楽に触れる場を提供した。

## (3) 施設の維持管理 6,888

- ・修繕料 237 (西側排水桝蓋取替修繕、スロープタイル修繕ほか)
- ・委託料 2,178 (清掃業務、機械警備業務、自動ドア保守点検業務ほか)
- ・光熱水費、借上料ほか 4,473 (電気・ガス・水道料金、複写機借上料ほか)

決算書 (P152～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	高田まちかど交流館管理運営費		

○施設の管理実績

<入館者数及び貸館利用状況>

年度	入館者数 (人)	うち貸館利用者		
		利用件数 (件)	利用人数 (人)	使用料 (円)
平成 29 年度	15,985	-	-	-
平成 30 年度	23,988	66	5,739	311,340
令和元年度	24,342	82	2,131	175,850

※平成 29 年度は、改修工事のため 11 月から休館

<施設管理における市の収支状況>

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
① 収入	使用料収入	-	311	241	176
	その他	3	1	-	-
	合計	3	312	241	176
② 支出	施設維持管理費	4,603	5,695	6,558	5,133
	うち委託料	2,311	2,273	3,644	2,178
	その他	1,182	1,550	1,669	1,755
	合計	5,785	7,245	8,227	6,888
③ 公費投入額 (②-①)		5,782	6,933	7,986	6,712
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		362	289	307	276

○目標達成状況

年間入館者数 24,342 人

【事業の成果】

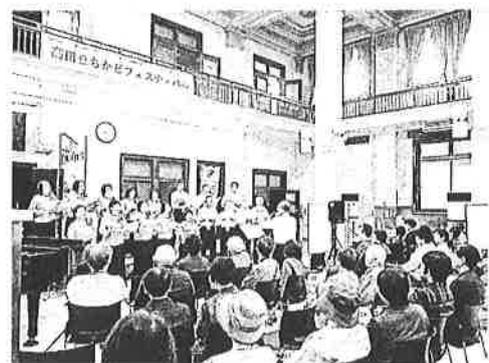
- ・合唱等の発表会や演奏会、文化団体等の展示会やイベントなど、多彩な催しが行われたことにより、人が集う機会が創出され、街なかの賑わいにつなげることができた。
- ・「高田まちかどフェスティバル」の開催を通して、音楽活動を行う団体及び個人の発表や交流の場を創出するとともに、当施設の利活用をPRすることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月の催し等の利用がほぼ無くなったことから、年間入館者数が目標を下回ったが、今後も、市民や文化団体等へ利活用のPRを行い、当施設の利用を促進するとともに、街なかの賑わい創出につなげていく。

【執行残額について】

事業費節減：施設管理内容の見直しによる節減 416  
 入札差金：施設管理委託料 59  
 その他：当初見込みを下回ったことによる燃料費、光熱水費等の残 464



高田まちかどフェスティバル

(単位：千円)

決算書 (P152～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミュージゼ雪小町管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
15,847	15,730				1,961 (使用料助)	13,769
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	117			12	105	

## 【目的】

芸術活動及び文化交流の場を提供することにより、市民による芸術文化の振興を図り、にぎわいと活力ある地域社会の形成に資する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

入館者数 55,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 芸術文化活動などの場の提供

美術館的仕様のギャラリーと創作活動・集会機能を持つ多目的室の貸室を行い、市民の文化・芸術活動や交流の場として利用された。

## (2) 企画展などの開催

上越市出身の偉人をテーマとした企画展を開催したほか、第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会において、上越アール・ブリュット公募展などを開催し、市内外からの集客を図った。

## (3) コーディネーターの配置

各種文化団体の展示会などの企画立案に向けた働きかけや助言を行うほか、団体相互の交流の場の創出や効果的な集客に向け、作品展の同時開催の提案を行うなど、団体間の連携を促した。

## ○施設の管理実績

## &lt;入館者数及び貸室利用状況&gt;

年度	入館者数(人)	うち貸室利用者		
		利用件数(件)	利用人数(人)	使用料(円)
平成29年度	55,111	683	21,658	2,002,302
平成30年度	51,039	686	18,073	2,316,852
令和元年度	54,643	601	16,751	1,913,325

※複数日の貸室の場合は1日1件でカウント、使用場所が複数の場合は1件でカウント

決算書 (P152～P153)	2款1項21目 文化振興費	所管課等	文化振興課
事業名	ミュゼ雪小町管理運営費		

<施設管理における市の収支状況>

(単位：千円)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	2,002	2,317	1,940	1,913
	その他	72	40	40	48
	合計	2,074	2,357	1,980	1,961
②支出	施設維持管理費	15,631	15,233	15,847	15,730
	うち委託料	6,813	6,713	6,919	6,918
	その他	-	-	-	-
	合計	15,631	15,233	15,847	15,730
③公費投入額(②-①)	13,557	12,876	13,867	13,769	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位：円)	246	252	252	252	

○目標達成状況

入館者数 54,643人

【事業の成果】

- ・上越教育大学の芸術系コースの修了研究展のほか、書道展、絵画作品展、いけばな展など、文化・芸術活動の成果発表の場として幅広い世代から利用された。
- ・ミュゼ雪小町常駐のコーディネーターが文化団体などの情報を収集し、施設の利用を促すことによって、年間を通して施設の利用が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、3月の利用が減少し、年間入館者数が目標を下回った。
- ・市民交流スペースの利用は増加しているものの、ギャラリー及び多目的室の利用は減少している。文化団体などの利用促進に向け、一層の周知を図るとともに、各団体などに対して、作品展の同時開催を提案するなど、団体間の調整を行い、利用者数の増につなげる。

【執行残額について】

入札差金：修繕料 12

その他：当初見込みを下回ったことによる共済費、負担金補助及び交付金等の残 105

(単位：千円)

決算書 (P154～P155)	2款1項23目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,526	5,675					5,675
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,851	307	2,429	70	45	

## 【目的】

調査研究等を通じて市政における重要課題の解決や理想像の構築に寄与し、地方自治体としての政策形成能力の向上を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・人口を始めとする統計データや地域資源情報など、政策形成に必要とされる基礎的データについて、よりわかりやすさを意識した提示を行う。
- ・市内の総合的かつ中長期的な政策立案を支援するため、市内関係課と連携した調査研究を行う。
- ・創発的な地域づくりを支援するため、地域への直接的な働きかけに貢献する研究交流を推進するとともに、今後の取組強化に向けた基礎研究を行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 調査研究

## ①政策立案に資する地域学習素材の作成

これまで整理・分析を行ってきた人口統計等の各種データや地域資源情報の更新・拡充を図ったほか、データを活用した地域学習や政策立案を支援した。

## ②当市における国際化の在り方に関する調査研究

統計データの分析やヒアリング調査などを通じて、外国人材や国際化を取り巻く市内外の動向の情報収集や論点整理、情報発信を行った。

## ③地域における創発的な学習・交流の場（プラットフォーム）に関する調査研究

他の地域における先進事例などを調査し、信越県境地域づくり交流会における企画内容や今後の調査研究活動の参考情報とした。

決算書 (P 154～P 155)	2 款 1 項 23 目 政策研究所費	所管課等	上越市創造行政研究所
事業名	調査・研究費		

## (2) 研究交流・情報発信

### ①信越県境地域づくり交流会の開催

持続可能な地域づくりに向けた学びと交流を深める広域プラットフォームを構築するため、関係機関との広域・異業種連携による企画運営を行い、第 8 回交流会（長野県山ノ内町）、第 9 回交流会（十日町市）での開催を支援したほか、第 10 回交流会（上越市）の開催準備を行った。また、地域の魅力発掘やその活用方法について考える地域研究グループの立ち上げ準備を行った。

### ②大学との共催フォーラムの開催

上越教育大学教科内容先端研究センターとの共催により、地域課題をテーマとした連続フォーラムを開催した。

### ③市内教育機関や市民団体への学習支援

教育関係者や市民団体からの依頼に応じ、人口動態や地域学習の手法などに関する話題提供を行った。

### ④ニュースレターの発行

調査研究の一部を紹介するほか、当市のまちづくりを考える上で共有すべき課題等を発信するため、ニュースレター「創造行政」を 3 回作成した。

### ⑤学会での研究成果発表等の実施

国内の研究機関との研究ノウハウ共有や研究ネットワーク強化を推進するため、地域政策に係る学会やフォーラムにおいて研究成果を発表したほか、自治体シンクタンク研究交流会議に参加した。

## ○目標達成状況

- ・ニュースレターの発行や市内教育機関への学習支援等の機会を通じて、統計データや地域資源情報などの基礎的データを提供した。
- ・国際化の在り方に関する調査研究など、庁内関係課と協力・連携した調査研究を行った。
- ・信越県境地域づくり交流会や大学との共催フォーラムの開催などにより、研究交流や基礎研究を推進した。

## 【事業の成果】

- ・各種調査研究や研究交流・情報発信を通じて、地方自治体としての政策形成能力の向上に貢献した。

## 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、第 10 回信越県境地域づくり交流会の開催を延期したほか、国際化の在り方に関する調査研究において計画した海外視察を見合わせた。
- ・政策形成に必要とされる基礎的データについては、活用を念頭に置いたより体系的な提示が必要である。
- ・過年度調査研究の継承・発展や新たな調査研究の推進力を更に高めるため、一層の調査研究能力やコーディネート能力の維持・強化が必要である。

## 【執行残額について】

事業費節減：参考事例調査の精査による旅費の減 307  
 事業未実施：新型コロナウイルス感染症の影響による事業内容の見直し 2,429  
 入札差金：ニュースレター印刷製本 70  
 その他：事業実績による不用額 45

(単位：千円)

決算書 (P162～P163)	2款1項29目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,830	7,340				420 (財産収入 諸収入)	6,920
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	490			77	413	

## 【目的】

市が所有する駅待合所等関連施設の適切な維持管理等を通じ、鉄道利用者の安全確保及び利便性向上を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・駅待合所等関連施設の清掃、周辺の草刈り及び修繕等の維持管理を行った。

路線名	区名	駅名	決算額	主な経費
ほくほく線	浦川原区	うらがわら駅 虫川大杉駅	3,371	電気料金 757 営繕修繕料 281 (虫川大杉駅土間修繕等) 施設管理委託料 2,168
	大島区	ほくほく大島駅	1,947	電気料金 808 営繕修繕料 226 (ほくほく大島駅昇降機部品交換修繕等) 施設管理委託料 802
	頸城区	くびき駅 大池いこいの森 駅	1,472	電気料金 348 営繕修繕料 64 (くびき駅外壁モルタル剥離修繕等) 施設管理委託料 885
信越本線	大潟区	犀潟駅 土底浜駅	550	報償金 198 電気料金 62 営繕修繕料 42 (土底浜駅前公衆トイレ便器詰り修繕等) 施設管理委託料 176

決算書 (P162～P163)	2 款 1 項 29 目 鉄道駅舎等管理費	所管課等	交通政策課
事業名	鉄道駅舎等管理運営費		

**【事業の成果】**

施設の安全性及び利便性を確保し、快適に鉄道を利用していただくことができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・施設の快適な利用環境を確保・提供するため、地域住民との協働により駅待合所等の維持管理を行っていく。
- ・ほくほく線開業から 23 年が経過し、駅待合所等の老朽化が進んできていることから、引き続き、適切に維持管理を行うとともに計画的に修繕を進めていく。

**【執行残額について】**

入札差金：屋上除雪作業委託等にかかる施設管理委託料 77

その他：電気料金等の実績が当初見込みを下回ったため 413

(単位：千円)

決算書 (P172～P175)	2款5項1目 統計調査総務費	所管課等	企画政策課
事業名	統計調査総務費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,920	1,868		1,494			374
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	52				52	

**【目的】**

誰もがが必要な統計情報が得られる環境を整備する。

## 令和元年度の取組

**【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】**

## ○令和元年度目標

上越市の各種行政施策等の基礎資料とするほか、市民等の多様な利用に供するため、各種統計調査結果の情報収集及びデータベース化を行い、統計要覧の発行やホームページの随時更新により提供する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・令和2年版上越市統計要覧を発行した。
- ・住民基本台帳人口などを地区別にデータベース化した。
- ・国が公表した各種統計調査の結果のうち、当市に関するデータを市ホームページに掲載した。

## ○目標達成状況

計画どおりに統計要覧を発行したほか、最新の各種統計情報を利用者に分かりやすく、かつ利用しやすく提供することができた。

**【事業の成果】**

最新の各種統計調査結果を収集し、データベース化した上で、統計要覧やホームページに分かりやすく掲載することで、市民等に適時にデータを提供することができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

今後も各種統計調査を適切に実施し、適時データを提供していく。

**【執行残額について】**

その他：非常勤一般職に係る通勤費等が当初見込みを下回ったことによる残 52

(単位：千円)

決算書 (P174～P177)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
30,048	24,713		24,713			
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5,335				5,335	

## 【目的】

- 各種統計調査等：工業統計調査を始めとする各種統計調査を正確かつ円滑に実施する。
- 統計調査員確保対策事業：各種統計調査を円滑に行うため登録統計調査員を確保するとともに、調査員の資質向上を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ■各種統計調査等

## ○令和元年度目標

進捗管理の徹底、審査手順の明確化等のチェック体制を確立し、工業統計調査、農林業センサスを始めとした各種調査事務を正確かつ円滑に実施する。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) 各種基幹統計調査における予算現額及び執行額

調査名称	基準日又は期間	予算現額 ①	交付金額・ 執行額②	執行残額 ①-②	執行残の理由
工業統計調査	6月1日	1,032	941	91	調査対象の減
学校基本調査	5月1日	58	56	2	-
全国家計構造調査	10～11月	4,416	4,301	115	調査期間の変更による調査量の減
国勢調査単位区設定	10月1日	1,123	783	340	調査方法の変更による作業量の減
農林業センサス	2月1日	18,816	16,639	2,177	農家減少による調査量の減
経済センサス調査区設定	6月1日	56	54	2	-
経済センサス-基礎調査	6～11月	4,477	1,870	2,607	調査方法の変更による調査員数の減
計		29,978	24,644	5,334	

決算書 (P174～P177)	2款5項2目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

(2) 各種統計調査の概要

調査名称	区分	調査概要	調査対象
工業統計調査	調査実施	製造品出荷額等の生産活動に関する事項を調査した	製造業に属する全事業所
学校基本調査	調査実施	児童・生徒数や教員数等の学校に関する事項を調査した	幼稚園、小学校、中学校、高等学校等
全国家計構造調査	調査実施	家計の収入・支出及び貯蓄・負債保有状況等に関する事項を調査した	一定の方法で抽出された世帯
国勢調査単位区設定	事前準備	令和2年国勢調査の実施に向け、調査単位区について必要な修正を行った	-
農林業センサス	調査実施	耕地面積、生産状況、販売金額等の事項を調査した	農林業経営体
経済センサス調査区設定	事前準備	経済センサスの調査区について、必要な修正を行った	-
経済センサス-基礎調査	調査実施	既存の事業所の名称や所在地のほか、新規に把握した事業所に関する事項を調査した	全産業分野の事業所及び企業

○目標達成状況

所定の審査手順や作業工程に基づき、各種統計調査を正確かつ円滑に実施することができた。

■統計調査員確保対策事業

○令和元年度目標

広報上越及びホームページによる募集を通じて統計調査員希望者の登録を推進し、調査時に必要な人材を確保するとともに、調査員に対し統計の意義の説明や利活用事例などの情報提供を行い、資質向上を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 統計調査員確保対策事業における予算現額及び執行額

予算現額①	交付金額・ 執行額②	執行残額 ①-②
70	69	1

(2) 具体的な取組

国の統計調査員確保対策事業の一環として、新規登録者の募集を行うと同時に、登録調査員研修への参加を促すなど、調査員確保と資質の向上を図る取組を行った。

○目標達成状況

広報上越及びホームページでの募集のほか、上越市シルバー人材センター会員へチラシを送付し募集した結果、調査時に必要な人材を確保することができた。

新潟県登録調査員研修への参加等を通じて、統計調査への理解を深めるなど、調査員としての資質向上が図られた。

決算書 (P174～P177)	2 款 5 項 2 目 統計調査費	所管課等	企画政策課
事業名	工業統計調査費ほか		

<登録統計調査員数>

年度	合併前上越市	13 区計	合計
平成 30 年度	103 人	53 人	156 人
令和元年度	119 人	52 人	171 人
増減	16 人	△1 人	15 人

(内訳) 令和元年度新規登録者数…35 人

**【事業の成果】**

- ・経済センサス-基礎調査では、新たな調査方法である調査員用端末機の導入に当たり、調査員に対する事前研修会を行ったことで、正確かつ円滑な調査を実施するための対応力を養うことができた。
- ・農林業センサスでは、えちご上越農業協同組合と連携したことにより、農業者への周知や調査員の確保を効率的に行うことができた。
- ・統計調査員確保対策では、新たに上越市シルバー人材センター会員へ募集チラシを配布した結果、登録統計調査員の新規登録者数を前年度の約 3.2 倍に増やすことができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

えちご上越農業協同組合や上越市シルバー人材センターとの連携を好事例として、今後も調査内容に適した様々な組織・団体等との連携に取り組むことにより、業務の円滑化を図る。

**【執行残額について】**

その他：調査方法の変更や対象数減による交付金の減 5,335